資料2

第3次佐賀市総合計画
（案）

令和6年9月

目次

第1章　序論 3
- 計画策定の趣旨 3
- 計画の位置づけ 3
- 計画の構成と目標年次 4
- 計画の進行管理 5
- 社会の潮流 6
- みなさんの声 8

第2章　人口ビジョン 13
- 人口ビジョンの趣旨 13
- 人口構造の変化と推移 14
- 将来の人口構造等の展望 15

第3章　2040 年に目指す姿（基本構想） 23
- 2040 年の将来像 24
- AI 等の最新技術とデータを活用したまちづくり 26
- 土地利用 31

第4章　各分野の目指す姿（基本計画） 34
- 横断的な視点 34
- 分野別の目指す姿（分野別計画） 35
- 分野別の目指す姿（SDGs と政策の対応） 55

第1章　序論

- 計画策定の趣旨
- 計画の位置づけ
- 計画の構成と目標年次
- 計画の進行管理
- 社会の潮流
- みなさんの声

第1章　序論

● 計画策定の趣旨

総合計画は、佐賀市が“長期的な視点に立って、どのような姿を目指し、何を行っていくのか”をまとめた計画です。

これから先の時代を見据えたとき、さまざまな変化が待ち受けています。この変化に向き合い、一人ひとりが幸せに暮らせるまちをつくるためには、市民や市民活動団体、事業者のみなさんと行政が力を合わせてまちづくりを進めることが大切です。

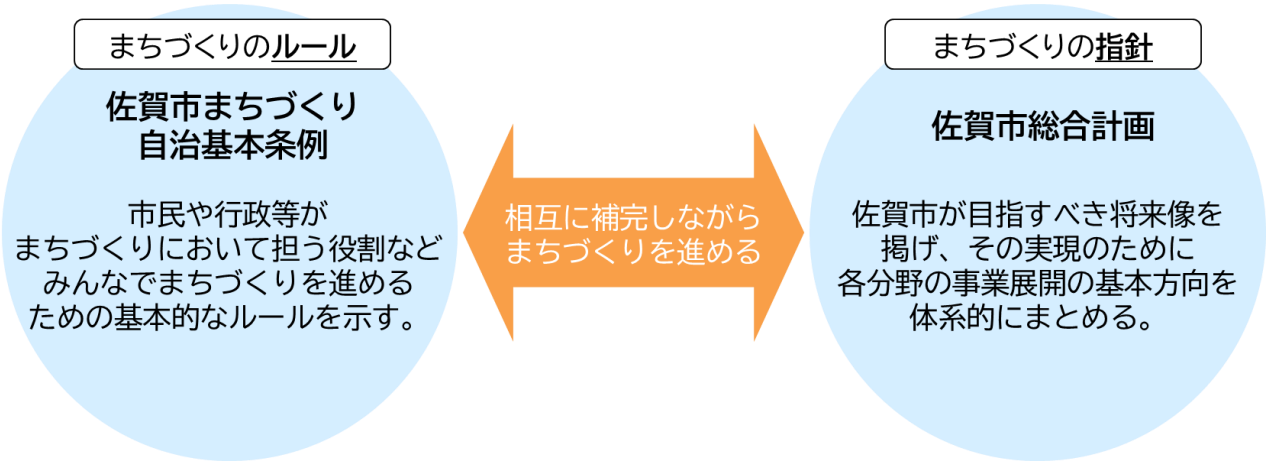
多くの方の声をもとに描いた目指す姿を共有し、その実現に向けて取り組む指針を示すものとして、この「第3次佐賀市総合計画」を策定します。

● 計画の位置づけ

「第3次佐賀市総合計画」は、まちづくりの指針を示すものであり、市の最上位計画に位置付けられます。

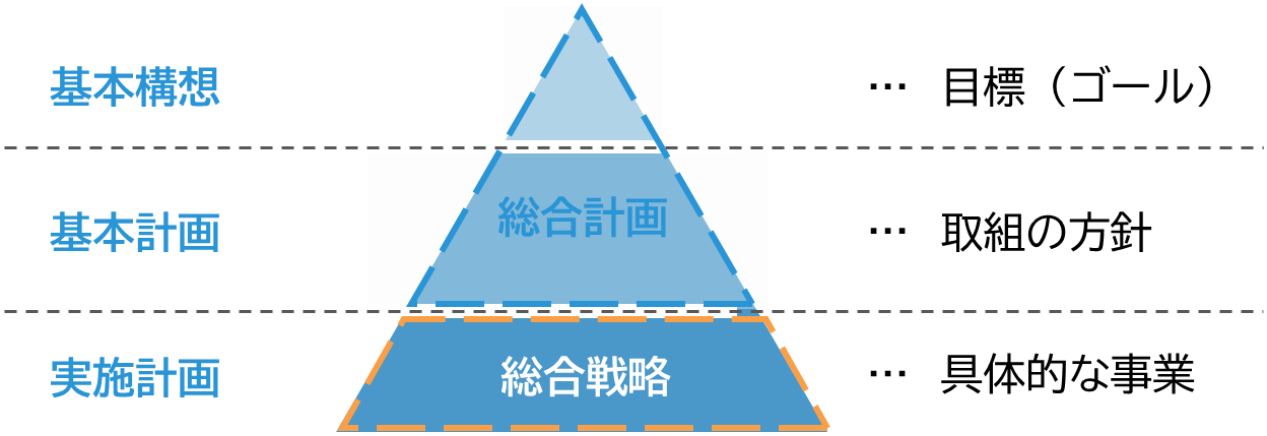
一方、私たちが協力してまちづくりを進めるためには、それぞれが担う役割等を定めるルールが必要で、そのルールは「佐賀市まちづくり自治基本条例」に示されています。

この計画と条例が相互に補完しながら、佐賀市のまちづくりを進めます。



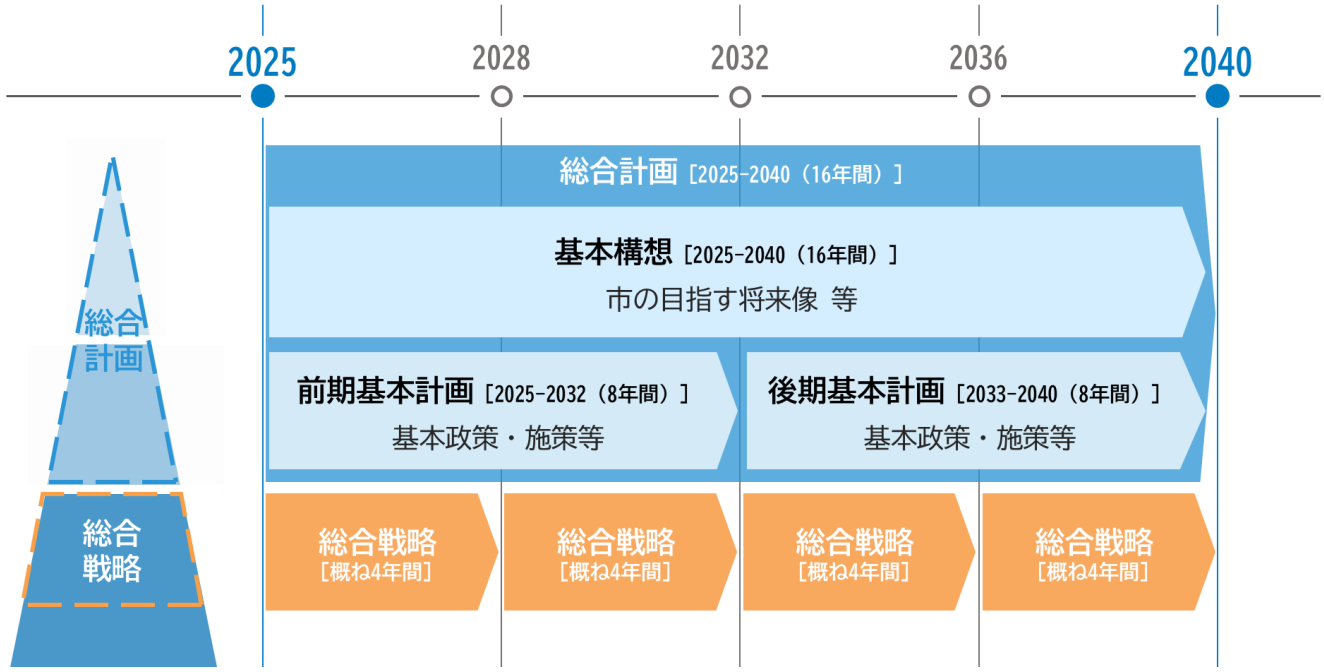
● 計画の構成と目標年次

〇計画の構成



※総合戦略は、総合計画の実施計画として位置づけ、重点的に取り組む事業を選定・体系化

〇目標年次



この計画では、人口減少をはじめとした将来の社会変化を踏まえ、目指す「将来のまちの姿」の実現に向けて、何をしなければならないのかということを示す「バックキャスティング」の考え方を採用しています。

また、本計画は、2040 年までの長い期間を対象としています。

計画については必要に応じて不断に見直しを行い、今後の社会変化などに柔軟に対応していくこととします。

● 計画の進行管理

この計画の目指す姿を実現するため、さまざまなことに取り組みます。この取組の状況や進捗、成果等を丁寧に把握し、その結果を次の取組に反映していくことが重要です。

このため、「行政評価」の仕組みを使って、総合計画に関係するさまざまな取組の状況や進捗、成果等を十分に把握し、着実な実現を目指していきます。

● 社会の潮流

今後、市を取り巻く社会・経済は大きく変化していくことが見込まれています。
起こり得る変化を予想し取り入れることで、時代に即した計画としていきます。

❶AI 等の最新技術の活用

〇AIをはじめとした技術は、急速に進歩しています。今後もさまざまな分野で、新しい技術の開発や進歩が次々と起こることが期待されています。
〇こうした新しい技術は、これから起こる地域のさまざまな課題を解決する鍵であり、積極的に取り入れることが求められます。

❷激甚化する災害への備え

〇近年、日本の多くの場所で、水害、地震等の自然災害が発生しています。
〇このような状況の中で、自助・共助・公助が連携して、防災対策を十分に行い、備えることが必要です。

❸こどもや若者、子育て当事者の視点の重視

〇全てのこどもや若者が、心もからだも元気で幸せに生活を送ることができる社会が期待されています。
〇こどもや若者、子育てをされているみなさんの目線に立ち、「いちばんの幸せは何か」を常に考え、それぞれの状況に寄り添ったきめ細かなサポートを行うことが期待されています。

❹多様性のある社会の実現

〇理想とする暮らし方、働き方、家族の在り方といった価値観は、グローバル化や情報化などの影響で多様化しています。
〇考え方や文化の違いをお互いが認め合い、手を取り合って、ともに生きる社会づくりが必要です。

❺文化・スポーツによるまちづくり

〇パンデミックを通じて、あらためて、文化やスポーツには地域や人を幸せにしてくれる大きな役割があると認識しました。
〇する人、みる人、ささえる人のそれぞれが、文化やスポーツに親しめる環境づくりが必要です。

❻新しい健康社会の実現

〇高齢化が進むことで、病院等での治療だけではなく、普段の生活の中での健康づくりがより大切になってきています。

〇新しい技術を使った取組など、未来の健康づくりの推進が必要です。

❼地域経済における経済循環の重視

〇人口減少によって、まち全体の経済が縮小していく恐れがある中、生産性を上げたり、新しい産業を育成したりすることが大切です。

〇まちの中の経済循環に着目し、この流れをよりよいものにするための取組を行うことが必要です。

❽人中心の社会への転換

〇これから迎える社会では、みなさん一人ひとりの豊かさや幸福度に着目することが重要です。

〇サービスの総量が減る中で、人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせていくといった「発想の転換」が必要です。

❾コンパクトなまちづくり

〇人口減少が進む中でも元気なまちを維持するためには、都市機能を効果的に誘導し、集約することで、まち全体の利便性を上げることが大切です。

〇これに合わせて、集約した各拠点を公共交通等で結ぶコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが必要です。

❿脱炭素社会の実現

〇現在、パリ協定に基づいて世界中で地球温暖化対策に取り組んでおり、日本においても、2050 年までの温室効果ガス実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指しています。

〇これからは、市民や企業のみなさんなどと一緒になって、このカーボンニュートラルの実現を目指していく必要があります。

● みなさんの声

市では、市民のみなさんとともに目指す「将来のまちの姿」を考えるために、さまざまな機会を用意し、これまでに多くのご意見をいただきました。

①市民アンケート

いまと未来の佐賀市のイメージ

●市民のみなさんとともに目指す「将来のまちの姿」を考えるために、市民のみなさんに「いまと未来の佐賀市のイメージ」をうかがいました。

概要

目的

- 佐賀市民のWell-Beingについて調査するとともに、いまと未来の佐賀市に対する市民の意見を定量的に聴取する。

実施概要

調査地域	佐賀市全域
調査対象	市内に居住する18歳以上
対象者数	2,000人
有効回収数	559サンプル （回収率 27.95%）
抽出方法	旧市町村ごとに住民基本台帳から 年齢階層別に無作為抽出
調査方法	郵送による配布、郵送による回収
調査期間	令和5年10月18日～11月12日

結果（自由記述）

佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること

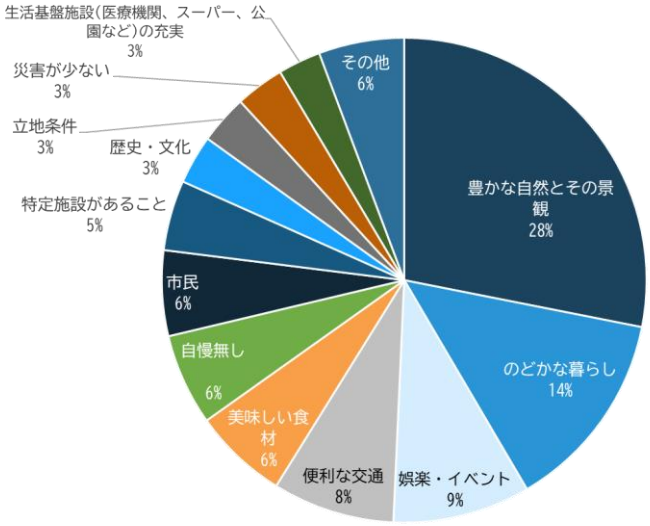
- 自然の豊かさに関する記載が多く、バルーンのまちを推す声も多い。

将来の佐賀市が、こんなまちになって欲しいと思うこと

- 「人」「こども」といった、人中心の将来が意見として多い。

佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること（自由記述）

●いまの「まちの魅力」の具体的な内容としては、「豊かな自然やその景観」「のどかな暮らし」「娯楽・イベント」「便利な交通」「美味しい食事」を挙げる方が多くみられました。



主な意見

豊かな自然とその景観
- 自然が豊かで、のびのび暮らすことができる。
- 自然の原風景が残っている。空が広く、大きく見える。

のどかな暮らし
- 市街地と自然がうまく調和していて、住みやすい。空気がきれい。
- 田舎で住みやすい、あえてその部分を特化しても良い。

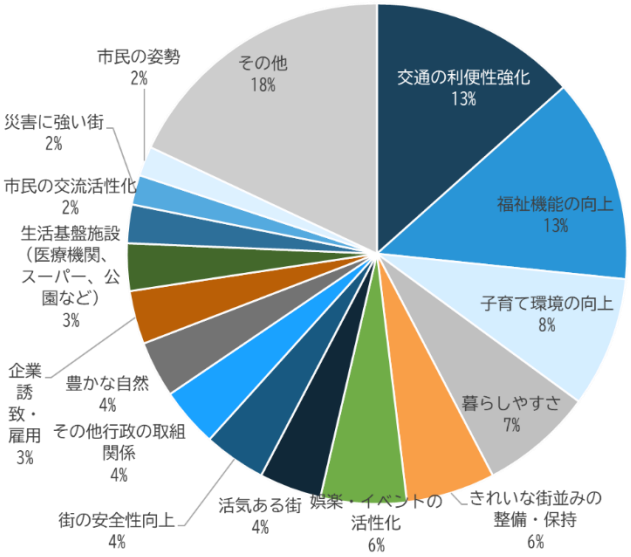
娯楽・イベント
- バルーンフェスタは自慢できます。
- 近年ではアリーナや佐賀駅等利用しやすく、魅力的な街に生まれ変わっていると思います。

便利な交通
- 空港が近く、身近な存在。佐賀駅を中心に活性化と整備が進んでいる。公園が充実している。

美味しい食材
- 食事がおいしいところです。食材はもちろん何を食べてもおいしいです。

将来（2040 年頃）の佐賀市がこんなまちになってほしいと思うこと（自由記述）

●理想の「将来のまちの姿」の具体的な内容としては、「交通の利便性強化」「福祉機能の向上」「子育て環境の向上」「暮らしやすさ」を挙げる方が多くみられました。



主な意見

交通の利便性強化
- 運転免許を返納後、自由に移動可能な交通機関の充実
- 公共交通機関が整い、移動にお金がかからないで済む様なまちにしてほしい。

福祉機能の向上
- 医療・福祉サービスが充実していて、安心して暮らせるまち
- こどもにも老人にも支援や介護が受けやすくなるようにしてもらいたい。

子育て環境の向上
- このまちで子育てしたいと思えるまちになってほしい。
- こどもがのびのびと暮らせる佐賀市になるようにしてほしい。公園など、安全に遊べる場所がほしい。

暮らしやすさ
- 誰もが（どんな世代も）住みやすい地域。誰もが（どんな世代も）生活しやすい地域
- 都会の若者が、「ゆとりのある暮らしの中で仕事ができるまち」として、あこがれてくれる様な佐賀市

②高校生ワークショップ・市長と意見交換

これからの未来を担う高校生のみなさんと一緒に、「いまのまちの魅力」や「将来のまちの姿」を考えました。

●「いまのまちの魅力」として、「ひと」「まち」「食べ物」「自然」の魅力が挙げられました。
●理想の「将来のまちの姿」として、「教育」「多様性」「技術」「交流」を大切にしたまちづくりが挙げられました。

概要

目的

- これからの未来を担う市内高校生が考える、いまの佐賀市の魅力や未来の佐賀市のイメージについて、市長と意見交換を行い、聴取する。

開催概要

	ワークショップ	ワークショップ	市長と意見交換
開催日	令和5年 10月17日（火）	令和5年 11月17日（金）	令和5年 11月28日（火）
開催場所	佐賀市役所	佐賀市役所	致遠館高等学校
参加者	市内高校生８名 （龍谷高等学校４名、致遠館高等学校４名）		
内容	■佐賀市の魅力・未来の佐賀市のイメージについて個々に考え、話し合い、意見を発表する。 ■２回のワークショップを経て、最後に市長と直接意見交換を行う。		

結果

いまの佐賀市の魅力は？

ひとの魅力	地域の人々が優しくかかわってくる みんな明るい
まちの魅力	心がおちつくような環境 定期的なイベント開催（アリーナ、駅前）
食べ物の魅力	野菜をたくさんゆずってもらえる
自然の魅力	自然体験が多くできる

未来の佐賀市のイメージは？
「笑顔あふれる！未来の佐賀市」

教育	男女の固定観念にとらわれない 子どもを安心して育てることができる
まちの多様性	都市と田舎の特徴を合わせたまち いろいろな仕事スタイルがある
技術	交通の利便性など今よりも強化 AIやリモートの十分な活用
交流	地域と住民のコミュニティの関係を深める

③大学生ワークショップ

市内・市外の大学生のみなさんに、「いまと未来の佐賀市のイメージ」をうかがいました。

●今のまちに対して、全体的に好意的な意見が多く、発展途上のまちであるものの、「住みやすい」「暮らしやすい」という声が多くみられました。

●2040 年のまちの姿として、「子育てのしやすさ」「高齢者の暮らしやすさ」「自然の豊かさ」を大切にしたまちづくりを望む声が多くみられました。

概要

目的

- 佐賀市内外の大学生の意見を収集し、Uターンや就職等の観点も踏まえた若い世代の市の将来像に関する意見を聴取する。

開催概要

開催日	令和5年8月14日（月）
開催場所	佐賀市役所
参加者数	20名
内容	■今の佐賀市はどんなまちか、意見交換 ■自身の社会人としての、将来像を想像する個人ワークを行い、班で個人ワークの結果を共有 ■2040年の佐賀市をどのようなまちにしたいか、将来像を想像する個人ワークを行い、その後、班で個人ワークの結果を共有

結果

佐賀市に対する印象について

- 佐賀市に対し、**好意的な意見**が多い。
- 佐賀市は自然が多く田舎であること等を理由に、**発展途上のまち**であるとする一方、災害が少ない、利便性がいいなどの理由から、**「住みやすい・暮らしやすい」**とする意見が多い。

2040年の佐賀市の将来像について

- 「子育てのしやすさ」「高齢者の暮らしやすさ」「自然の豊かさ」を重要視する協議内容が多い
- 各班が作成した将来像

① 帰ってきたいまち
② 交通の便が良く、子育て支援が手厚く、偏見などの現代的問題を幅広い世代が意識できているまち
③ 様々な施設が身近になり、住みやすいまちにしつつ、バルーンをより強調した観光施設や佐賀にゆかりのあるアニメなどとコラボレーションを進めていく
④ 自然に人が歩くまち　さが

第2章　人口ビジョン

- 人口ビジョンの趣旨
- 人口構造の変化と推移
- 将来の人口構造等の展望

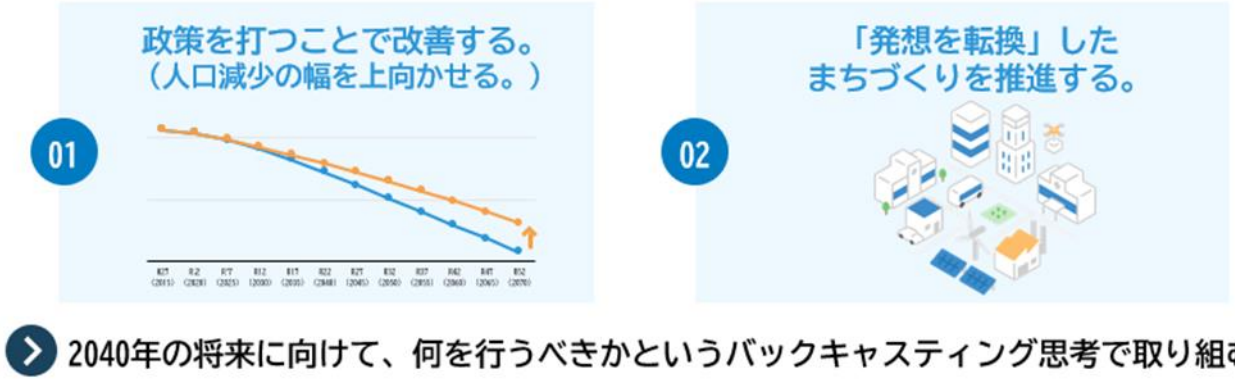
第2章　人口ビジョン

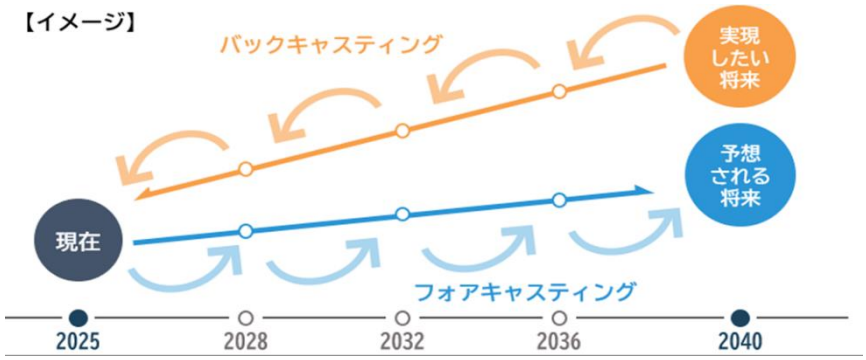
● 人口ビジョンの趣旨

市の人口ビジョンや国立社会保障・人口問題研究所の推計では、将来の市の人口減少や人口構造の変化を予測しています。特に2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となり、人口構造が大きく変化することが見込まれています。仮に出生率が回復したとしても、人口は減り続け、ある程度の人口減少は防げません。そのため、人口減少は避けられない未来となることを認識し、「少子化の課題」と「人口減少による課題」は切り分けて考える必要があります。

それぞれの分野において、人口減少の幅を上向かせるための政策を立案し、発想を転換したまちづくりをバックキャスティング思考で進めることが必要です。

【人口減少に対する考え方】





● 人口構造の変化と推移

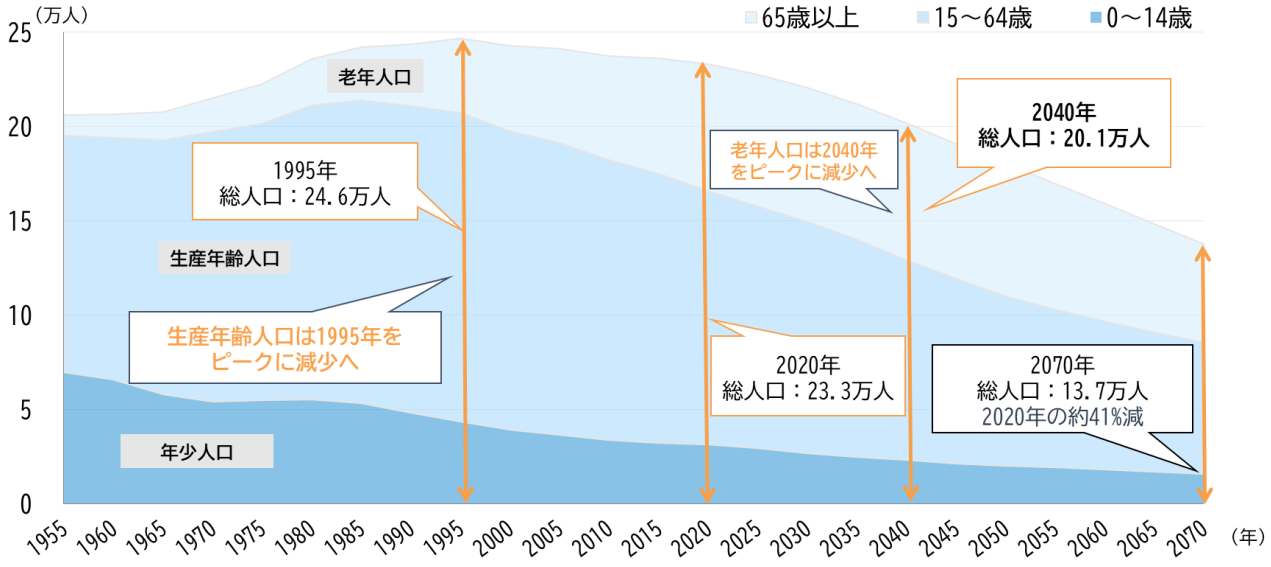
将来推計人口

〇ポイント

市の総人口は 2040 年に 20.1 万人と、2020 年(23.3 万人)比で 14%減になると推計されています。

年齢区分別でみると、老年人口は増加を続けているものの、2040 年にはピークを迎え減少へ転じることが見込まれています。

【年齢区分別人口の推移(佐賀市)】



出所:佐賀市人口ビジョン(令和4年度)

● 将来の人口構造等の展望

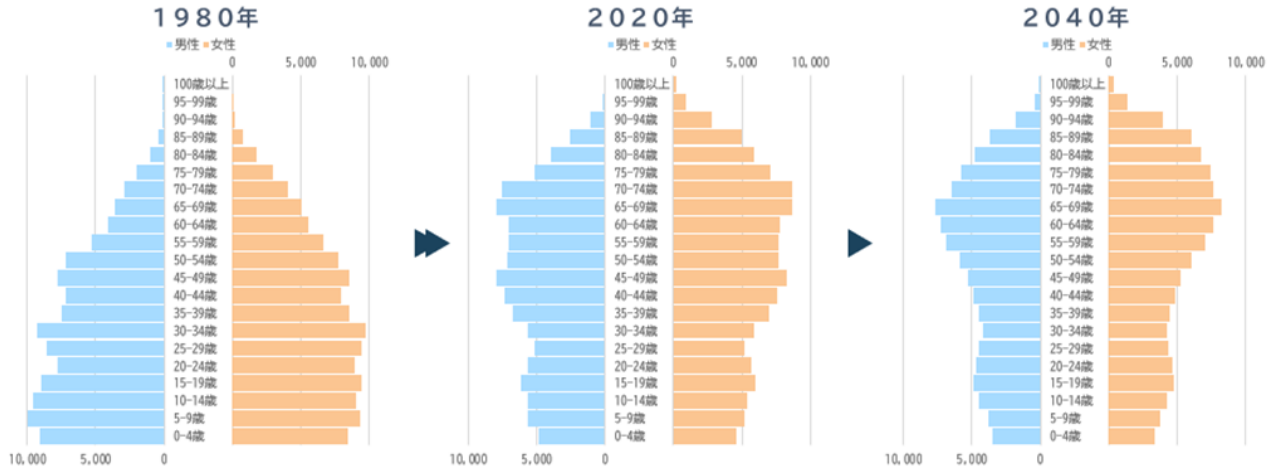
人口ピラミッド

〇ポイント

2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になります。

市の人口の総量が減ると同時に人口構造が変化し、生産年齢人口約2人で１人の老年人口を支える構造（2020 年）から、約 1.46 人で１人を支える構造となると推計されています。

【人口ピラミッドの推移（佐賀市）】

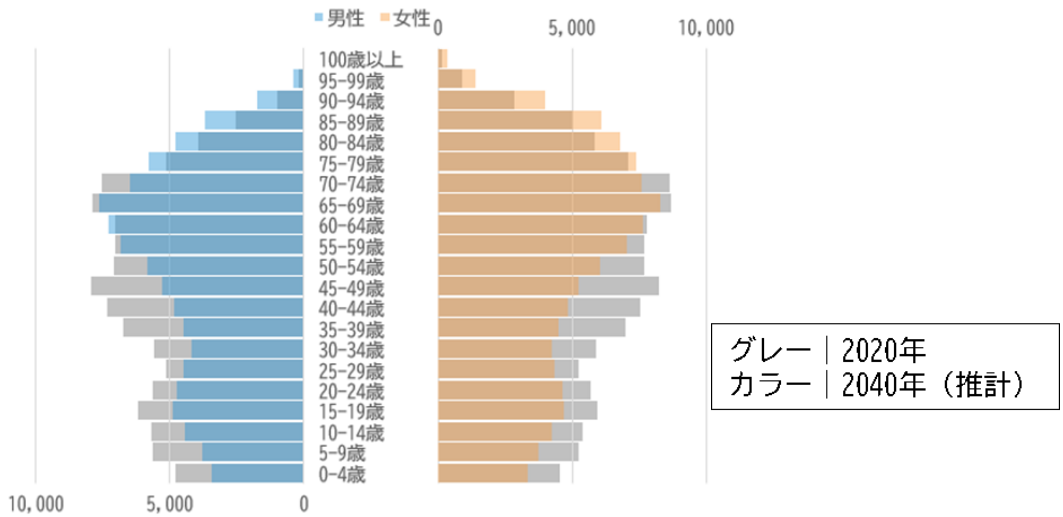


出所：佐賀市人口ビジョン（令和4年度）

〇ポイント

2020年と2040年の人口ピラミッドを重ねると、老年人口が増加し、生産年齢人口・年少人口が減少することが分かります。

【 2020 年と 2040 年の人口ピラミッドの比較（佐賀市）】



出所：佐賀市人口ビジョン（令和4年度）

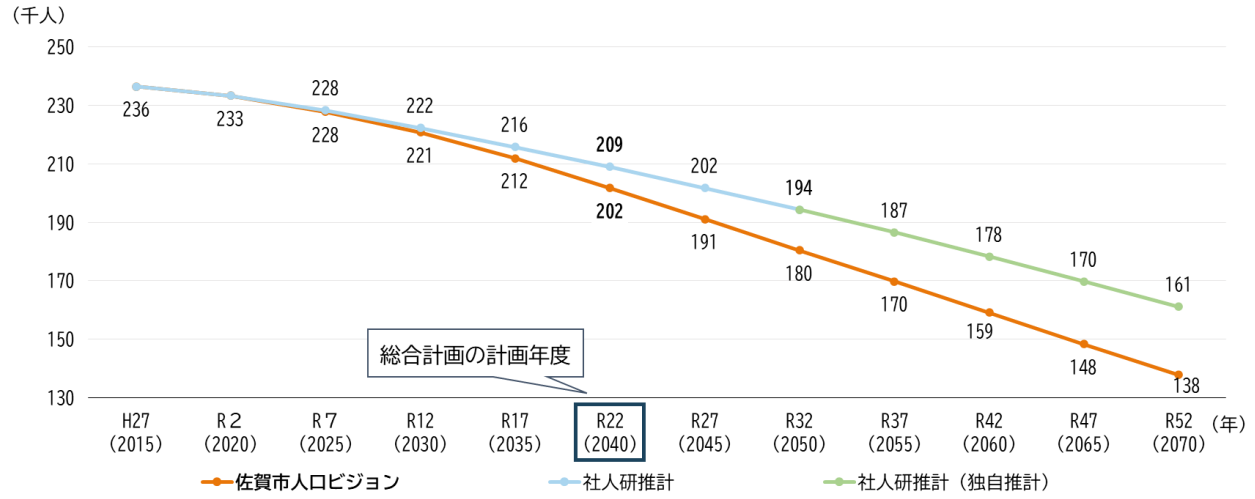
国立社会保障・人口問題研究所推計との比較

〇ポイント

佐賀市人口ビジョン（令和4年度）と国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の将来推計人口（令和5年）を比較しても、市の人口が減少傾向にあることは変わりません。

国立社会保障・人口問題研究所の推計の方が、人口の減少率はより緩やかに推移すると見込んでいます。

【将来人口推計（佐賀市）】



出所：佐賀市人口ビジョン（令和4年度）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

※令和 32 年以降の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所推計の条件を変えずに市が独自に推計したもの

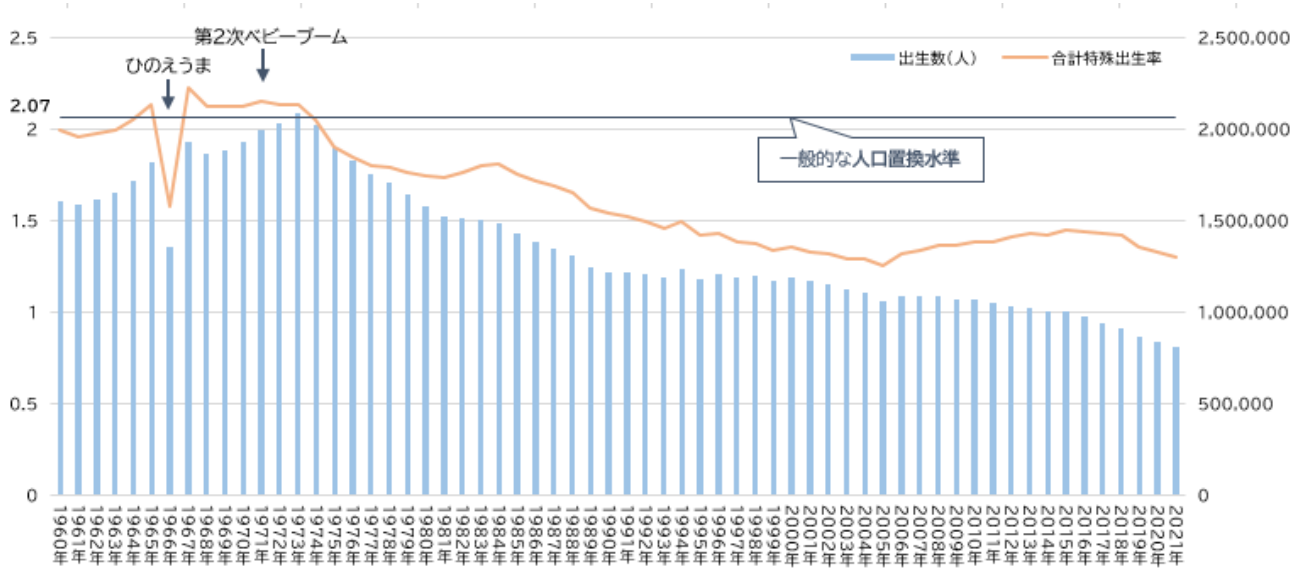
日本の合計特殊出生率

〇ポイント

合計特殊出生率について、現在の人口を将来にわたって維持し続けることができる水準（＝人口置換水準）は、2.07とされています。

しかし、我が国では、最も出生数が多かった第2次ベビーブーム期（1971 年-1974 年）において 2.14 であり、第2次ベビーブーム以降は一貫して 2.07 を下回っており、近年では 1.3 台を推移している状況です。

【日本の出生数と合計特殊出生率の推移】



出所：厚生労働省「人口動態統計」、
　　国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

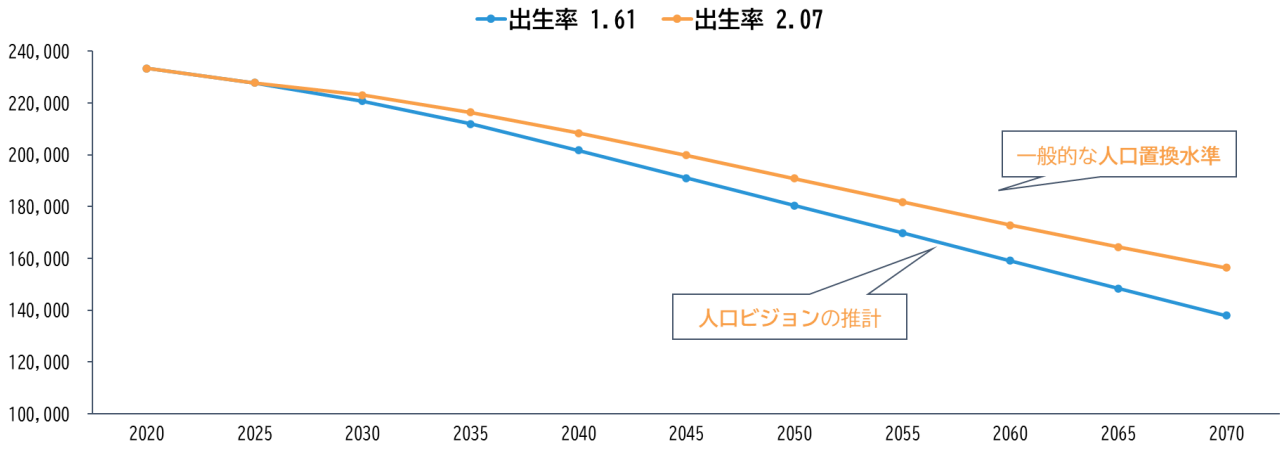
出生率シミュレーション

〇ポイント

　市の出生率が、現在の出生率(1.61)から人口置換水準(2.07)まで上がった場合でも、一定水準までは人口減少が続くことが想定されます。

　仮に、現在の市の人口水準を維持するためには、3.9 程度の出生率が必要です。

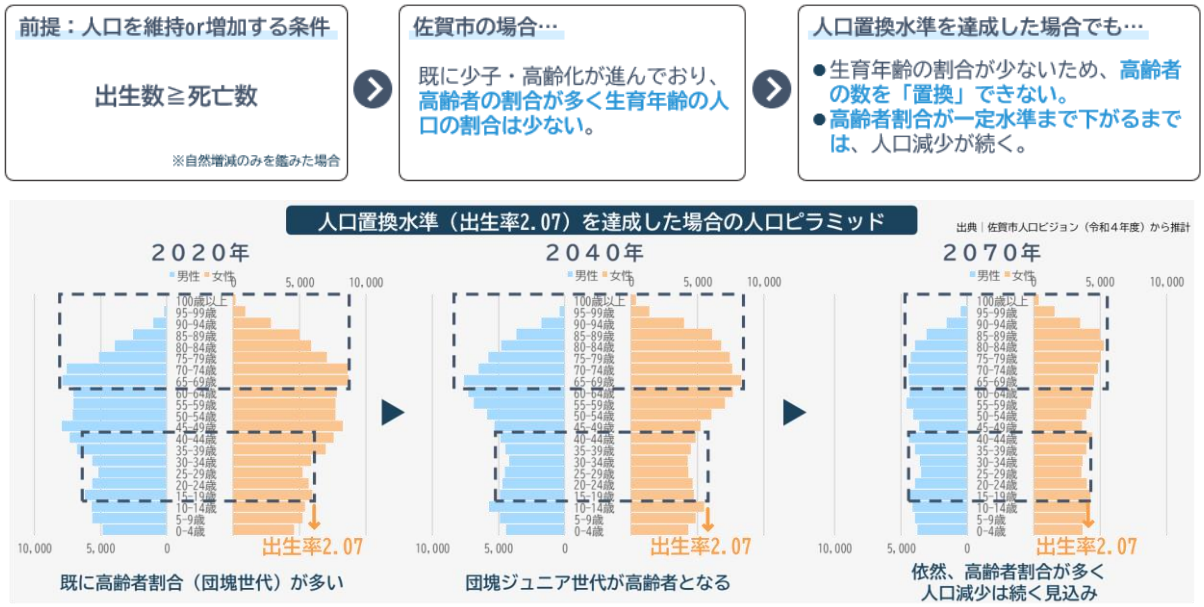
【出生率シミュレーションに基づく将来人口の推移(佐賀市)】



出所：佐賀市人口ビジョン(令和4年度)から推計

【なぜ、出生率が人口置換水準まで上がっても、人口が減少し続けるのか？】

市では、既に高齢者の人口割合に対して生育年齢の人口割合が少ないため、仮に出生率が人口置換水準を達成したとしても人口減少は避けられません。

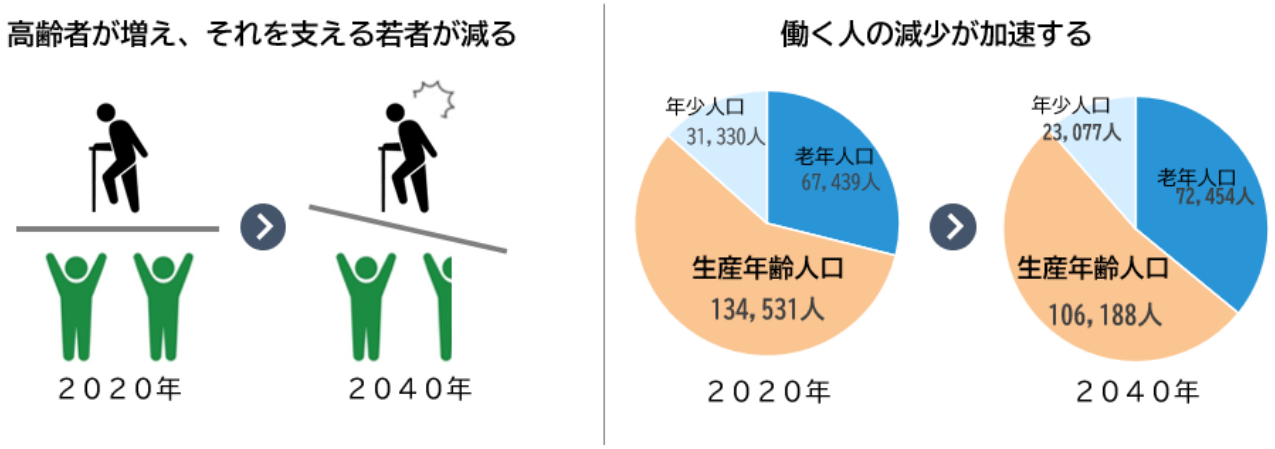


出所：佐賀市人口ビジョン（令和4年度）から推計

2040 年の変化

これらの推計を踏まえ、2040年に起こる変化として考えられるのは、高齢者が増え、それを支える若者が減ることです。そして、働く人の減少が加速することも予想されます。このことは、社会保障のバランスの変容や経済の縮小などをもたらすことが考えられます。

【2040 年に予想される変化】



このほかにも…

地域

- 地域のつながりの希薄化
- 空き家の増加

↓

- 佐賀市の強みである「地域のつながり」を磨く取組が重要に

健康

- 高齢者率の増加
- 医療費や社会保障負担の増加

↓

- 健康増進に向けた取組がさらに重要に

経済

- 需要全体が減少し、経済規模が縮小

↓

- 規模の経済だけに着目せず、経済循環を高めたり、商品の付加価値を高めたりすることが重要に

個人

- 人口が減ることによって、一人ひとりの希少価値が相対的に高まる。

↓

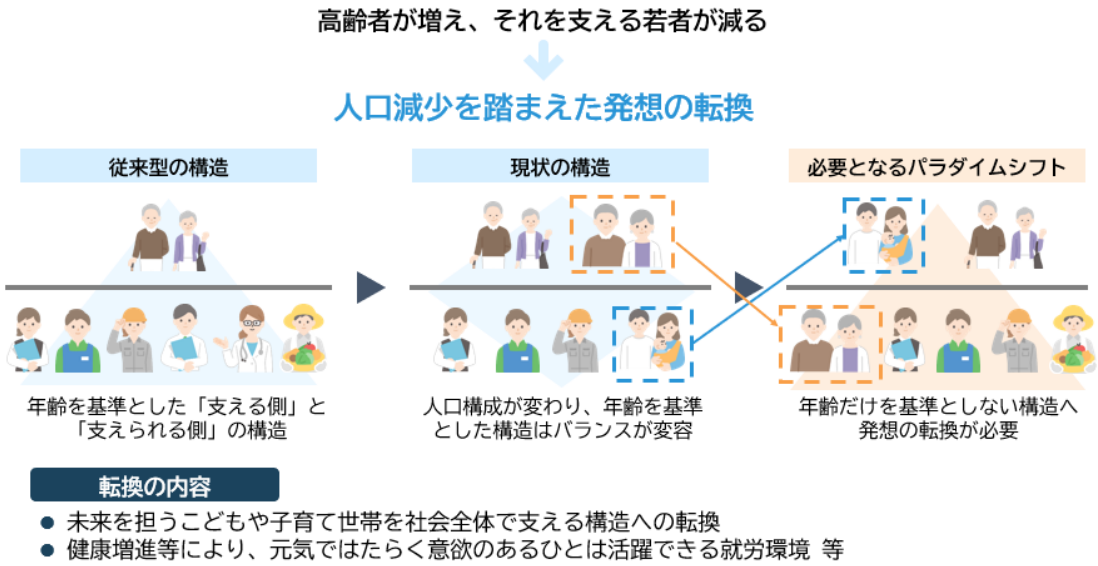
- 一人ひとりの成長や担う役割に着目することが重要に

発想の転換

この人口構造が変化する時代において、佐賀市が変化に向き合い進化し続けるためには「発想の転換」を意識することが重要です。

「高齢者が増え、それを支える若者が減る」という変化に対しては、人口減少を踏まえた発想の転換を行う必要があります。これまでは年齢を基準とした構造でしたが、これからは、年齢だけを基準としない構造へ発想を転換する必要があります。そのためには、子育て環境・就労環境等を柔軟に変化させていく取組が必要です。

【2040 年の変化を見据えた「発想の転換」のイメージ】

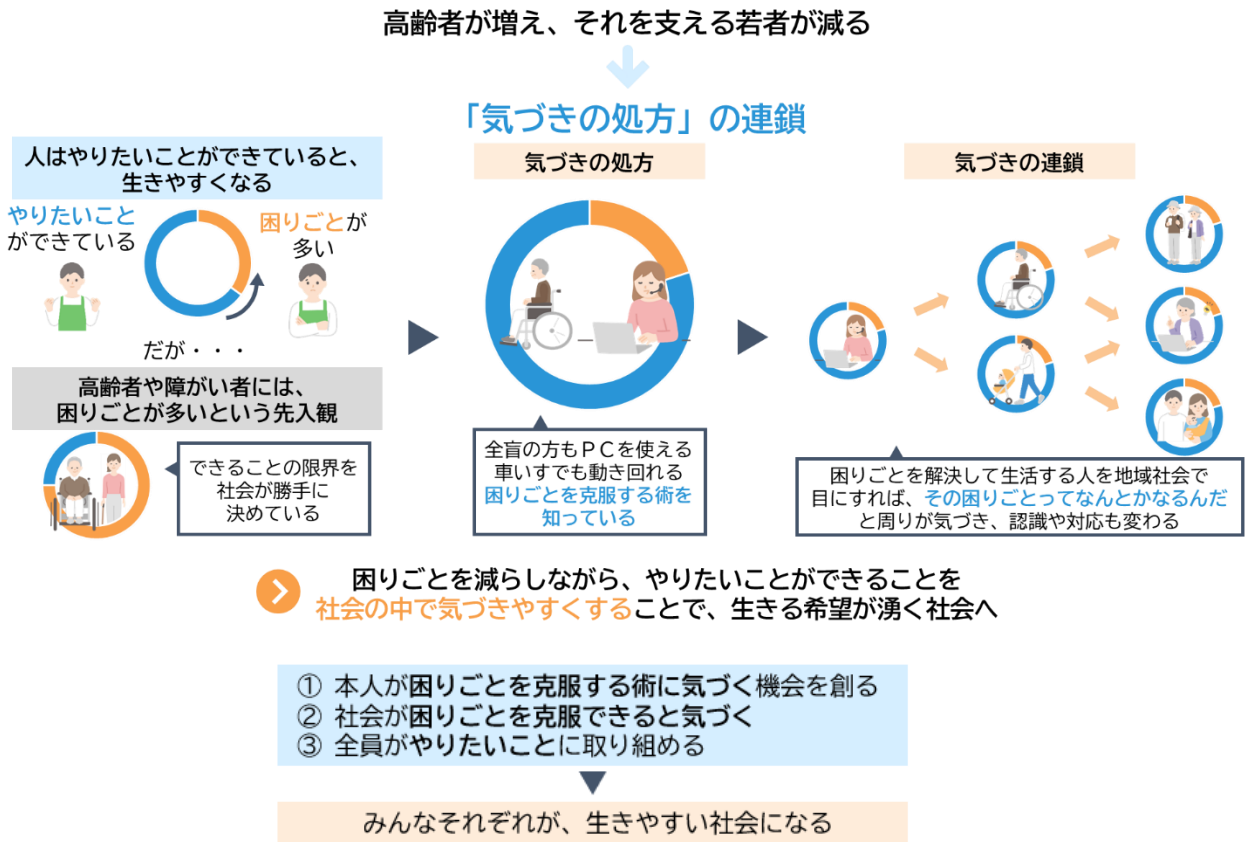


出所：内閣府参与資料を参考に佐賀市作成

この構造変化を実現させるためには、「気づきの処方」を連鎖させていくことが重要です。

人はやりたいことができていると生きやすくなります。しかし、高齢者や障がい者には、困りごとが多いという先入観が生まれている現状があります。この現状を技術等の活用によって、一人ひとりが困りごとを克服する術があることに気づき、「困りごとは克服することができる」と社会が連鎖的に気づくことができれば、みんながやりたいことができ、生きやすい社会を実現できます。

【「発想の転換」を実現するための「気づきの処方」の連鎖イメージ】



出所：内閣府参与資料を参考に佐賀市作成

加えて「働く人が減少する」ということに対しても、発想の転換が必要です。これまではサービスの供給量を高めることが求められてきましたが、働く人が減る中で高めるべきなのは、生産性や多様な働き方です。

AI 等の最新技術やデータの活用によって生産性を上げながら、働く人が働きやすく、自分らしく働ける社会をつくっていくことが重要です。

【働く人が減少することに対する「発想の転換」を実現するためのイメージ】

働く人の減少が加速する

↓

生産性向上や多様な働き方へ発想の転換

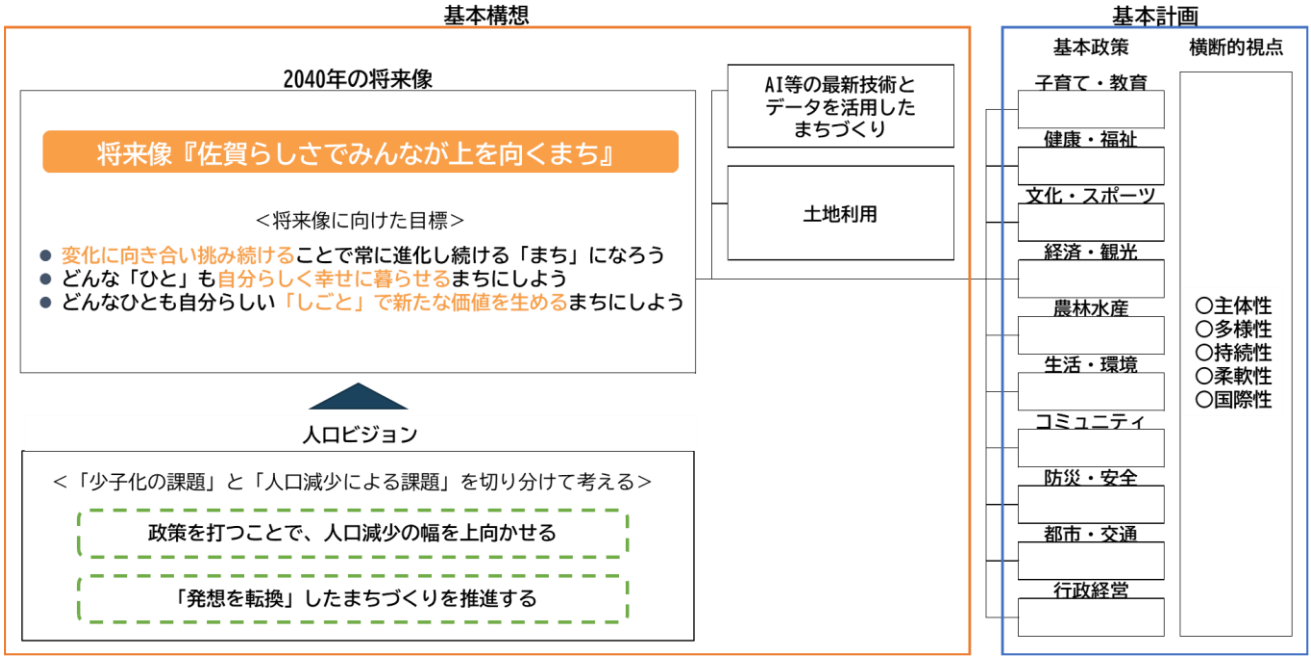
- ＡＩ等の最新技術やデータを活用することによる生産の自動化や情報の可視化・誘導
- 働く人に光を当て、自分らしい働き方ができるような社会の構築

第３章　2040 年に目指す姿（基本構想）

- 2040 年の将来像
- AI 等の最新技術とデータを活用したまちづくり
- 土地利用

第3章　2040 年に目指す姿(基本構想)

計画体系図



● 2040 年の将来像

■将来像

『佐賀らしさでみんなが上を向くまち』

私たちはこれまで、「佐賀らしさ」というものにどれだけ目を向けてきたでしょうか。

豊かな自然に囲まれながら、都市と調和した便利な暮らしができること。
平坦で広い佐賀平野の上で、どこまでも続く広い空の下で、のびのびと過ごせること。
有明海に面し、嘉瀬川や筑後川が流れ、縦横にクリークが巡る、水の豊かさを感じられること。
脊振・天山山系の山々の恵みを感じられる暮らしができること。
身近なところに温泉があり、美味しい食べ物に囲まれていること。
ときに街に出かけ、ときにスポーツや文化に夢中になる、そんなワクワクがたくさんあること。
暮らす人々が信頼し、ふれあい、つながり合う、そんなあたたかい地域があること。

暮らしの中で当たり前に感じていることが、実は、私たちが好きな「佐賀らしさ」でもあります。

この「佐賀らしさ」をこれから先も大切にしていきたい。
これから新しく生まれる技術や発想で、この「佐賀らしさ」をもっと磨き上げていきたい。

そして、2040年に佐賀市に暮らす人々、佐賀市を訪れる人々が、「佐賀らしさ」に触れ、幸せで、豊かな気持ちでいてほしい。

このような願いを込めて、この第3次佐賀市総合計画では、**2040年における「佐賀らしさ」が「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」となるよう目指します。**

そして、時代が大きく変化する中であっても、大空に浮かぶバルーンを見上げるように**「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」**を2040年に目指す将来像に掲げます。

■将来像に向けた目標

2040年における「佐賀らしさ」が、
「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」
となることを目指して…

○変化に向き合い挑み続けることで常に進化し続ける「まち」になろう

気候変動や災害の激甚化、人口構造の変化等、私たちを取り巻く環境は大きく変化していきます。私たちの「まち」も、常に時代や社会の変化に対応することを求められています。

これまでにあった資産や歴史、文化を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人来る人にとって心地よいまちづくりをみんなで進めていきます。

○どんな「ひと」も自分らしく幸せに暮らせるまちにしよう

これから目指すまちづくりは、「ひと」が中心のまちづくりです。人口減少の局面を迎える中では、暮らしの基盤となる経済的な価値だけでなく、一人ひとりの幸福や体験の豊かさといった心の価値の両方を大切にしなければなりません。

新しい発想や技術は取り入れる一方で、誰もが自分らしく暮らせることを大切にすることで、みんなが幸せに思えるまちづくりを進めていきます。

○どんな人も自分らしい「しごと」で新たな価値を生めるまちにしよう

「しごと」の在り方は時代とともに大きく変化し、内容だけでなく、働き方や「しごと」への向き合い方も多様化しています。

一人ひとりが自分に合った「しごと」を選び自分らしく働けるような、選択肢の多い環境をつくる。そこから新たな価値が生まれ、一人ひとりの豊かな暮らしをつくり、まちの明日の活力となる。働く人の視点を大切にしながら、「しごと」から生まれる価値を追求するまちづくりを進めていきます。

● AI 等の最新技術とデータを活用したまちづくり

方針

社会が人に合わせることで、
佐賀らしさを引き立てるまちづくり
：2040年の暮らしを支え、幸福を実感できる佐賀市へ

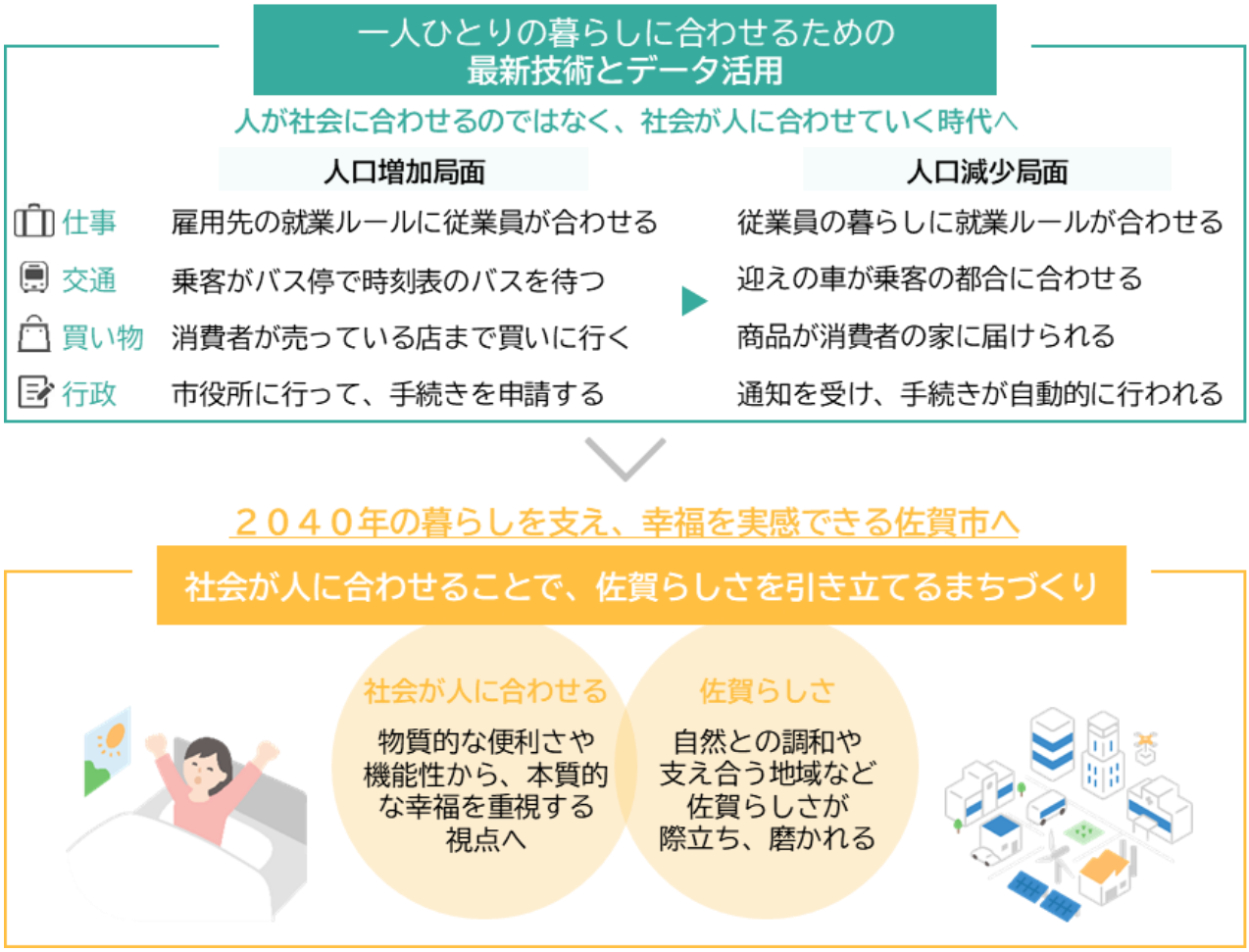
2040年の未来、人口構造をはじめとしたさまざまな変化が予想される中、この変化に挑み続けるために最新技術とデータは重要なカギとなります。

人口が増えている時期は、サービスが次々と供給されていたため、人がサービスに合わせれば効率が上がりました。しかし、これからの人口が減少する局面ではサービスの総量が減るため、サービスが人々の暮らしに合わせる必要があります。つまり、人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせていく時代になってきています。

社会が人に合わせるためには、最新技術やデータの活用が必要不可欠であり、技術の進歩こそが、私たちの未来を明るくすると考えています。そこで、この総合計画を推進していく上で、私たちは最新技術とデータを積極的に活用していきます。目指す方針は、「社会が人に合わせることで、佐賀らしさを引き立てるまちづくり」です。

社会が人に合わせることで、一人ひとりの暮らしが便利になり、時間や心に余裕をもたらします。その結果、人々は物質的な便利さや機能性を求めるのではなく、本質的な幸せ、例えば良好な環境や健康を大切にするように価値観を変えるのではないでしょうか。そして、地域と深く結びつきながら、互いに助け合うコミュニティ、都市と自然が調和した生活、美味しい食べ物…そんな佐賀らしさは引き立ち、人々が幸せに暮らせるまちとして選ばれ、磨き上げられていくと考えます。

最新技術とデータの活用によって、物質的な豊かさ＝便利から、精神的な豊かさ＝幸福を重視する視点に変化し、それに合わせたまちづくりにシフトしていく。このことが2040年の暮らしを支え、幸福を実感できる佐賀市となるようなまちづくりを目指します。



出典：デジタル庁の資料を参考に佐賀市作成

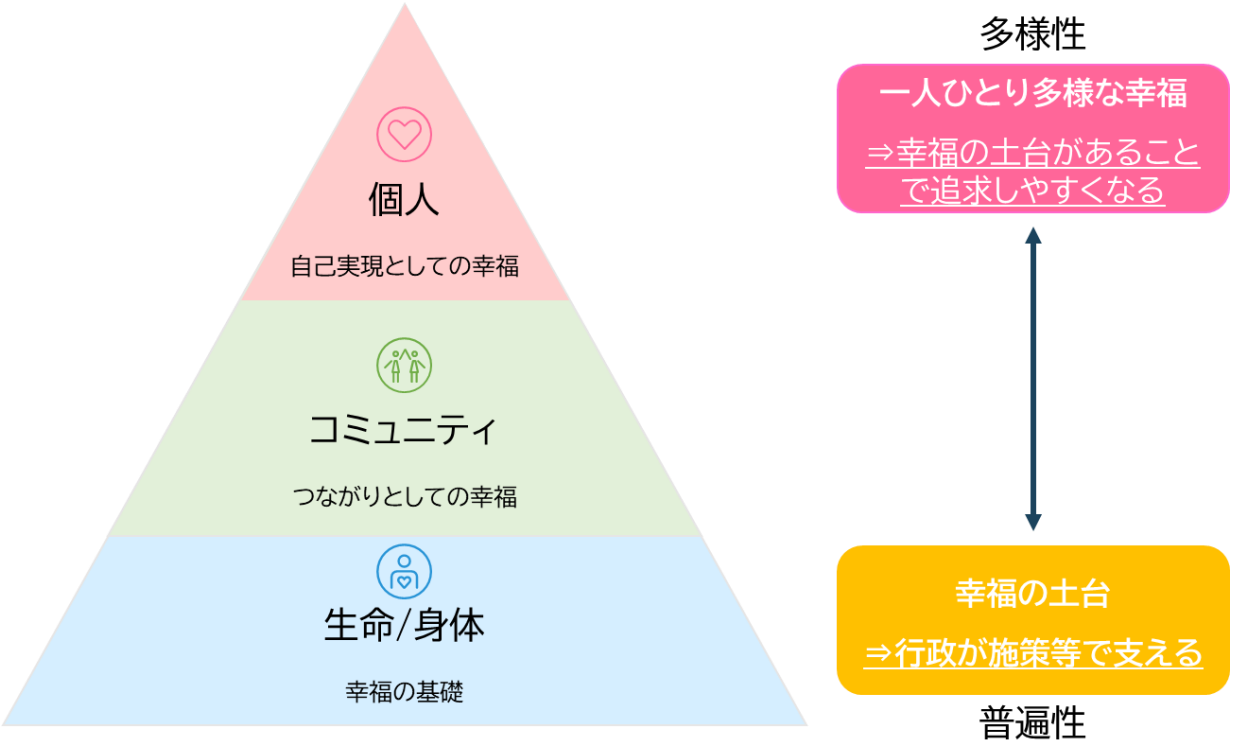
○データを活用した幸福度

人の幸福は「幸福の土台」から「一人ひとり多様な幸福」までが重なって成り立っています。

市民が幸福を実現するためには、「幸福の土台」、具体的には、医療・福祉や教育、雇用といった「幸福の基礎」やコミュニティ支援による「つながりとしての幸福」を行政の施策等で支え、そのことによって市民が「一人ひとり多様な幸福」を十分に追求できるまちづくりが必要だと考えます。

そのためには、それぞれの施策が市民の目線に立ち、市民の暮らしやすさや幸福度につながっているか確認しながら進めることが必要です。幸福度については、地域幸福度（Well-Being）指標等のデータを活用し、「佐賀らしさ」に気づく材料とするとともに、このデータに基づいた立案・検証を進めることとします。

【人の幸福の成り立ちのイメージ】



出所：広井良典教授（国立大学法人京都大学 人と社会の未来研究院）の提唱する「幸福の重層構造」をもとに佐賀市作成

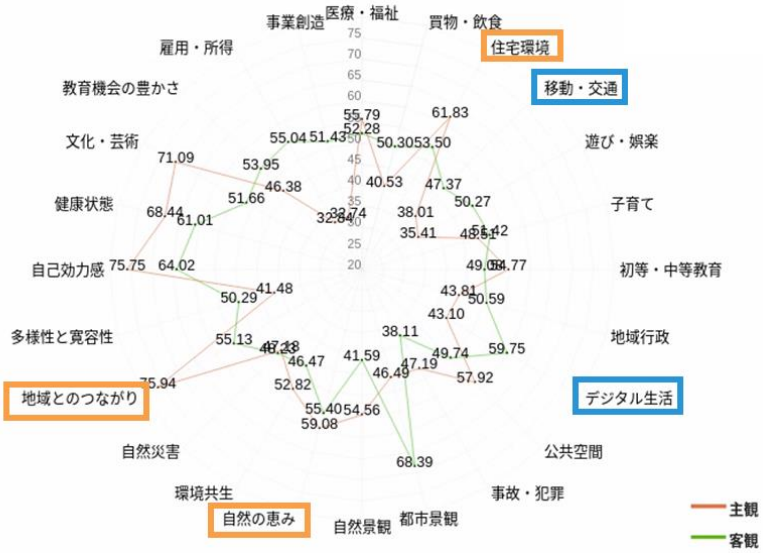
[参考｜地域幸福度(Well-Being)指標とは]
客観指標と主観指標のデータを活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を指標で数値化・可視化したもの
ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出する目的

【地域幸福度（Well-Being）指標の考え方】

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
「地域幸福度（Well-Being）指標 利活用ガイドブック」

●佐賀市の“幸福度”指標

【佐賀市の地域幸福度（Well-Being）指標】



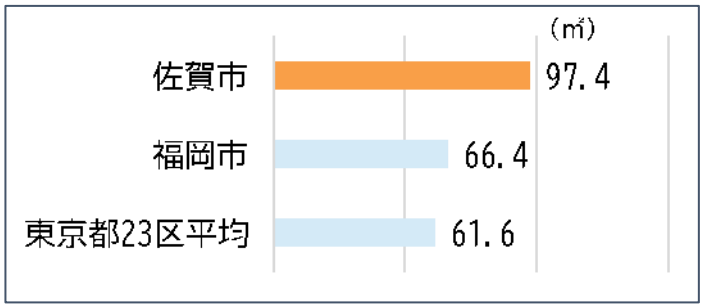
出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
「地域幸福度（Well-Being）指標(令和5年度)」

今回の総合計画策定のためにアンケート調査を実施した結果を反映しています。

佐賀市の Well-Being 指標を俯瞰したとき、「地域とのつながり」「住宅環境」「自然の恵み」など、「都会にはない暮らしやすさ」に関する指標が高いことが特徴（＝佐賀らしさ）となっています。

こうした「佐賀らしさ」を踏まえつつ、市民のみなさんの幸福度を上げるには、「都会にはない暮らしやすさ」を磨き上げながら、指標が低い「移動・交通」「デジタル生活」などの「利便性を向上」することによって、より豊かに暮らせるまちになることが重要です。

【1 住宅当たり延べ面積】



「住宅環境」を例に挙げると、**佐賀市民は、東京都 23 区民と比べて 1.5 倍以上の広さの家**に住んでいます。

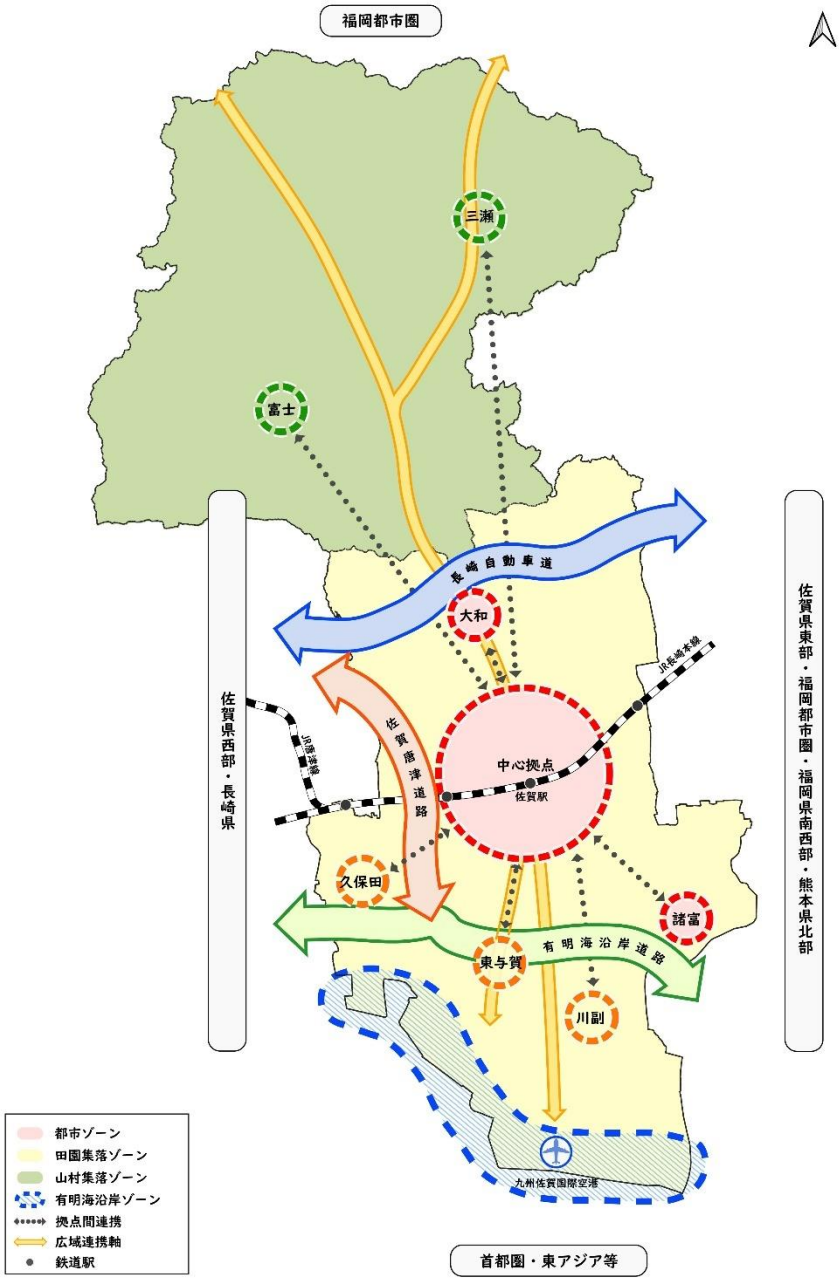
出所：総務省統計局「平成 30 年住宅・土地統計調査」

● 土地利用

●2040 年に向けた土地利用の方針

これからのまちづくりは、都市機能を集約したコンパクトなまちを形成しつつ、各拠点を公共交通等のネットワークで結ぶことが必要です。この考え方を基本とし、みんなに愛される「佐賀らしさ」あふれるまちを目指して、地域の特性を踏まえた４つのゾーンに分けて土地利用の計画を示します。

●方向のイメージ図（将来都市構造図）



① 都市ゾーン

○佐賀市の中心部、諸富町、大和町の市街地を都市ゾーンと位置づけ、誰もが多様なサービスを受けられるように、生活利便性の維持向上につながる都市機能を誘導し、各拠点間をネットワークで結ぶ都市的土地利用を進めます。

② 田園集落ゾーン

○主に川副町、東与賀町、久保田町などに位置する田園集落ゾーンは、農用地の保全に努めるとともに、災害リスク等に十分配慮しながら各拠点を含む集落機能の維持や地域振興を促す適切な土地利用を進めます。

Ⅰ 佐賀大和ＩＣ周辺エリア

・佐賀大和インターチェンジ周辺とそれに接続する主要幹線道路沿線は、広域的な交通利便性や既存の工業団地を生かし、周辺の自然や農用地との調和を図りながら、産業用地としての土地利用を誘導します。

Ⅱ 佐賀唐津道路沿線エリア

・鍋島貨物駅に近接する佐賀唐津道路の広域的な交通利便性を生かし、その沿線に産業振興を促す土地利用を検討します。

Ⅲ 有明海沿岸道路沿線エリア

・有明海沿岸道路沿線に、広域道路ネットワークを生かした新たな産業基盤や各地域の特色を取り入れた人々の交流を促す土地利用を検討します。

③ 山村集落ゾーン

○富士町や三瀬村などに位置する山村集落ゾーンは、山間部や里山の森林等を保全し、豊かな自然とふれあう場として活用するとともに、各拠点の集落機能を維持します。

④ 有明海沿岸ゾーン

○有明海の海岸域に位置する有明海沿岸ゾーンは、雄大な干潟等の豊かな自然環境を保全するとともに、魅力ある地域資源を生かし、人々の交流や体験学習の場として活用します。また、九州佐賀国際空港のポテンシャルを生かして、国際交流の拠点となるよう促します。

第4章　各分野の目指す姿（基本計画）

- 横断的な視点
- 分野別の目指す姿（分野別計画）
- 分野別の目指す姿（SDGsと政策の対応）

第4章　各分野の目指す姿（基本計画）

● 横断的な視点

「2040 年の将来像」の実現を目指すにあたり、政策分野において課題が生じることが見込まれますが、「発想の転換」で新たな機会を創出し、幸福度（Well-Being）の高いまちづくりに生かしていきます。

そのために、それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」「国際性」の5つの視点から横断的に施策を展開します。

❶主体性・・・主体性を持ち、安心して暮らし続けられる地域社会へ

少子・高齢化等の社会情勢の変化に対応し、安全で快適なまちづくりを進めるには、住む人々のつながりや関係性を日々充実させ、市民等（市民、民間企業、地域コミュニティ等）が主体のまちづくりが求められています。

市民等と行政が互いに情報共有を行い、主体性を尊重してみんなが積極的に参加し、お互いに得意なことを生かして協働する、みんなで進めるまちづくりを進めていきます。

❷多様性・・・多様性を理解し、尊重する社会へ

社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダー、グローバル化などの多様性を認め合う社会の実現が求められています。

このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。

❸持続性・・・持続性を追求し、次世代につながる社会へ

気候変動から地球を守るために、今、世界的に具体的な対策が求められています。

自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用や脱炭素型のライフスタイルを進めることで、カーボンニュートラルの実現を目指します。また、産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させた経済社会システム全体の変革にも注目していきます。加えて、生物多様性を保全し、自然再生の取組を進めることにより、今ある環境を次世代へとつなげていきます。

❹柔軟性・・・柔軟性を高め、変わり続ける社会へ

AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。

時代に取り残されることがないように、変わることを恐れず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。また、大学や企業等が集積している利点を生かし、さまざまな主体と連携しながら、より柔軟で多角的な視点からまちづくりを進めていきます。

❺国際性・・・グローバルな視点を持ち、世界に開かれた社会へ

技術の進歩や世界経済との結びつきなどを背景に、グローバル化は急速に進展しており、経済や観光、教育などあらゆる分野においてグローバルな視点で物事を捉えることが求められています。

「日本国内の佐賀」だけでなく、「世界の中での佐賀」にも目を向け、地域の魅力を磨きながら発信し、世界に開かれた社会を目指します。

● 分野別の目指す姿（分野別計画）

01　子育て・教育

こどもの幸せを何よりも優先するまち

これからの未来を担うこどもたちが、この佐賀で幸せに暮らすこと。それが未来の佐賀を生きるみんなの幸せにもつながっていく。
そのために、こどもたちが主体的に学び、生きる力を育む教育を進めるとともに、かけがえのない家族の時間を大切にしながら、地域全体でこどもを第一に考えるまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿

1　こどもたちは、将来に夢と希望を持ち、健やかに成長している。

主なポイント

こどもたちが安心して過ごせる居心地のいい場所があること	安心して子育てができること	こどもや子育て当事者の目線に立つこと

2　こどもたちは、目標を持って主体的に楽しく学んでいる。

主なポイント

こどもたちが、自ら考え、行動し、生きる力を身につけること	誰一人、こどもたちを取り残さないこと	こどもたちが楽しく学べる環境があること

3　家庭・地域・企業等の全ての大人は、地域全体で協力してこどもの育ちを支え、こどもも大人も笑顔で過ごしている。

主なポイント

大人とこどもたちの気持ちが通じ合うこと	こどもたちを見守る輪がどんどん広がること	こどもたちのニーズにあう居場所があること

4　こどもも大人も、好きなときに好きな場所で学び、生きがいをもって暮らしている。

主なポイント

「学びたい」を叶えられるまちであり続けること	学びを通して、人と人がつながる場所があること	学びがあふれ、一人ひとりの生活に潤いがあること

1　こどもたちの幸せと健やかな成長を育む環境の充実

① それぞれの子育て世帯が必要とするサービスを組み合わせる「カスタムメイド」の支援を行うとともに、子育てDXを推進します。
② こどもにとって居心地のいい空間をつくり出すため、保育施設や学童施設の環境を整備し、施設や人材を適正に配置します。
③ 育児の孤立化を防ぐ仕組みづくりやこどもの居場所を確保するとともに、「社会全体での子育て」への意識醸成を推進します。
④ こどもと接する時間や精神的なゆとりを創出し、親が身近な場所で専門的なサポートを受けられる仕組みづくりを推進します。

関連する主な個別計画
子ども・子育て支援事業計画、ひとり親家庭等総合支援計画

2　多様な未来につなげる教育の推進

① 最新技術等を活用しながら、児童生徒同士が学び合い、多様な考え方に触れながら学んだ知識をもとに主体的に判断し、課題解決や新たな価値を生み出していく力を育みます。
② 多様な教育ニーズに対応し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、全てのこどもたちの可能性を最大限に伸ばす教育を推進します。
③ 地域や民間の人材を活用しながら、教員が児童生徒に向き合える時間を確保するとともに、全ての児童生徒が安全に安心して学校生活を送れるような教育環境を整備します。
④ 施設の整備・更新を適正に行い、ユニバーサルデザインに配慮した安全・安心で快適な学習環境を整えます。

関連する主な個別計画
教育振興基本計画

3　地域全体で支えるこどもの健全育成

① 家庭・地域・企業等・学校等が一体となり、全ての大人が子育てに関わって、「子どもへのまなざし運動」を推進します。
② 市民活動団体等と協働し、リアルとオンライン双方のこども・若者の居場所づくりを充実させます。
③ こどもがインターネットによるトラブルに巻き込まれないようにするため、ネット内の見守り活動を実施するとともに、こどもと保護者に向けて安全なSNS活用を啓発します。

関連する主な個別計画
教育振興基本計画

4　いつでもどこでも学ぶことができる生涯学習の推進

① 県や大学など他機関との連携により、学びたい人へ学びたいことを届ける学びのマッチング（プッシュ型）機能や、学びたいことを自分で選べる学習情報を充実させます。
② 市民がつながり学べる場（リアル・バーチャル）を提供し、学びの場の使いやすさを常にアップデートしていきます。
③ ICTやデジタルコンテンツ等を活用しながら、高齢者、障がい者、外国人等のニーズに応じた学びを支援します。

関連する主な個別計画
教育振興基本計画、図書館サービス計画

02　健康・福祉

健やかに、幸せに満ちたまち

いつまでも健やかに、幸せに満ちたまちでありたい。
それを実現するためには、どんな人もお互いにつながり、支え合う地域共生社会を築くことが大切です。
みんなが健康で、それぞれの役割を持ちながら参加し、生きがいを感じられる地域をともにつくっていくまちを目指します。

2040年に目指す市民等の姿

1　市民一人ひとりが生きがいや役割を持ち、地域で世代を超えたつながりの中で暮らしている。

主なポイント

- みんなが地域づくりに参加できること
- 多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること
- 福祉サービスにつながる体制と仕組みがあること

2　市民は自ら健康づくりに取り組み、いきいきと暮らしている。

主なポイント

- 多くの人が健康を意識し、自分の健康状態を知ろうとすること
- 健康に無関心な人たちが行動を変えること
- どこにいても医療を受けられる体制があること

1 地域共生社会を目指す福祉の充実

○みんなが地域づくりに参加できること

① 誰もが参加しやすい場や機会を創出し、生きがいや社会参加につながる取組を進めます。
② 認知症や障がい等への理解や啓発の充実を図ります。
③ 互いに見守り支え合うネットワークづくりを推進し、孤独・孤立などの課題を抱える人の早期発見等、安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。
④ 災害時に避難支援を必要とする要支援者の避難支援を行う等、いのちを守る体制の充実を図ります。
⑤ 就労が困難な状況にある方が、自立して地域生活を送ることができるよう、行政・関係支援機関が連携を図り、就労支援を通して地域社会への参加を促進します。
⑥ 担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もがさまざまな形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。

○多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること

① どこに相談してよいか分からない方や複合化・複雑化した相談を抱える方に対し、アウトリーチなど多様な手段による相談の受け止めや、伴走型支援を推進します。
② 多様な福祉ニーズへの適切な対応や、生活や財産などの権利を擁護する取組を進めるため、行政や各種相談支援機関等とのネットワークを強化し、包括的な支援を推進します。

○福祉サービスにつながる体制と仕組みがあること

① 高齢・障がい施設等への新たなテクノロジーの導入等について関係機関と連携して取り組むとともに、人材育成等を支援し、安定した福祉サービスの供給を行えるようにします。
② SNSの活用や多様なコミュニケーションの手段を充実させ、福祉に関する情報を必要としている人に伝える工夫を進めます。

関連する主な個別計画
地域福祉計画・地域福祉活動計画、高齢者保健福祉計画、障がい者プラン

2 日頃から取り組む健康づくりの推進

① 最新技術を活用してプッシュ型の情報提供を行い、市民の健康意識の向上を図ります。
② 効果的な受診勧奨によりがん検診や特定健診の実施率を向上させることで、市民が自身の健康状態を把握し、健康の維持・増進に対する意識の醸成を図ります。
③ 生活習慣病予防等の取組を通して、健康寿命の延伸を目指します。
④ 特定健診結果や医療機関受診のデータを分析・活用し、効果的な保健指導を行うことで、重症化リスクの抑制を図ります。
⑤ 安心して医療を受けることができる体制を整えます。

関連する主な個別計画
健康づくり計画、食育推進基本計画、自殺対策計画

03　文化・スポーツ

心豊かに夢と誇りを未来につなぐまち

文化やスポーツは、私たちを夢中にさせ、暮らしに潤いを与えてくれます。そして、文化やスポーツが生活の一部にあることで、それぞれの夢や誇りにつながります。
これまで培ってきた伝統に新しい風を取り入れながら、文化やスポーツを未来につないでいく。そうすることで、いつまでもワクワクがたくさんあり、心豊かに暮らせるまちを目指します。

2040年に目指す市民等の姿

1　市民は、する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる。

主なポイント

- 自分らしくスポーツと関われること
- 「する」以外のスポーツへの関わり方の魅力が伝わること
- プロスポーツチームのホームタウンである強みを生かすこと

2　市民は、歴史や風土に育まれた文化を大切にしながら、新たな文化の創造に取り組み、心豊かに暮らしている。

主なポイント

- 佐賀の歴史や文化が大切に継承されていること
- 市民が文化を身近に感じるとともに、新たな文化が創造されていること
- 市民が誇れる歴史を生かしたまちであること

1 する・みる・ささえるスポーツの推進

① スポーツに関わる機会を増やすため、デジタル技術の活用を含め、スポーツの情報や場の提供などの環境づくりやきっかけづくりを推進します。
② 競技種目の多種目化に伴い、施設が不足しているため、既存施設の有効活用を図ります。
③ スポーツをみる機会を増やすため、市民が気軽にさまざまなスポーツを楽しくみることができる環境づくりを推進します。
④ 年代、障がいの有無などに関わらず、誰もが支えあってスポーツに関わることができるよう、スポーツボランティアや指導者を育てるなどの環境づくりを推進します。
⑤ 健康増進、介護予防、経済振興など、他の行政分野や県、企業等とも連携し、スポーツの重要性を周知・啓発し、スポーツの習慣化を推進します。
⑥ プロスポーツチームが身近にある強みを生かし、スポーツを通して市民が一体感や幸福感を感じ、夢や誇りを持てるような取組を推進します。

関連する主な個別計画
スポーツ推進計画

2 文化の魅力を高め未来へ

① 市には、歴史や風土の中で育まれてきた佐賀ならではの歴史遺産や伝統文化などが数多くあり、大切に継承されるよう取組を推進します。
② 市民が暮らしの中で多彩な文化芸術活動に触れ、自ら取り組む機会を創出します。
③ 文化が持つ多様な価値や魅力を、最新技術を取り入れながら分かりやすく発信します。
④ 江戸期の風情が残る佐賀城下町を、市民が誇れる場所となるよう歴史を生かした公園整備やまちなみ保存などに取り組みます。

関連する主な個別計画
文化振興基本計画、歴史的風致維持向上計画

04 経済・観光

「ひと」と「しごと」に選ばれ、稼ぐまち

佐賀市の経済・観光がいつまでも発展するためには、多様な「ひと」や「企業」に選ばれ、多くの人を引き付けるまちである必要があります。
佐賀市を選ぶ人を増やすために、一人ひとりの多様な価値観や生き方、可能性に光を当てて、「暮らしたい（働きたい）」、「訪れたい」、「応援したい」と思われるまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿

1 **企業等は、事業活動を通して、地域課題の解決や従業員の豊かな生活を実現しながら持続的に成長を続けている。**

主なポイント

- まちの稼ぐ力を高め、域際収支の改善を図ること
- 働き方の選択肢を増やし、多様な人材を増やすこと
- 未来につながるビジネスを生み出すまちであること

2 **市民は日常にある地域の魅力を内外に伝え、市を訪れた人は多様な観光体験を通じて、佐賀のファンになっている。**

主なポイント

- 佐賀らしい観光を磨き上げ、提供すること
- 佐賀の観光の魅力を世界に伝えること
- 佐賀の観光は、稼ぐ観光であること

3 **市民は、魅力ある都市機能が集まり、にぎわうまちなかで、平日・休日の両方を快適に過ごしている。**

主なポイント

- 暮らす人・働く人も、イベントなどで訪れる人も、みんなが楽しく過ごせるまちなかであること
- まちなかの使われていない土地や店舗等をにぎわいに変えていくこと
- 機能的で利便性の高い都市であること

1 働きがいのある企業を増やす

① 市内企業の競争力を高めるため、生産性の向上や高付加価値化の実現につながる経営支援を進めます。
② 多様な働き方の実現や、スキルアップ・スキルチェンジに向けた人材育成を産学官民の連携で促進します。
③ 人的ネットワークの構築・拡大等によるオープンイノベーションを促進し、創業や先進的なビジネスへの挑戦を生む環境整備を行います。
④ デジタル社会・グリーン社会をはじめとした持続可能な社会の実現に向けた動きを踏まえ、先進的技術を活用するなど地域経済をけん引するような企業の誘致を促進します。
⑤ 誰もが安心して意欲的に働くことができるよう、労働環境の向上と勤労者福祉の充実を促進します。

2 価値のある観光体験の提供

① バルーンをはじめとする他にはない観光資源（コト、モノ、イベント）を最大限に活用し、市民も国内外からの観光客も、いつでも豊かな体験ができる佐賀らしい観光を提供します。
② マーケティングに基づき、地域の特性を生かした佐賀の魅力を国内外に発信するとともに、市民が世界に誇れる地域ブランドの創出を目指します。
③ 佐賀市に滞在しながら、周辺地域も楽しんでいただける観光拠点を目指し、事業者とともに年間を通じた観光消費の拡大につなげます。

3 ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化

① 魅力ある店舗や施設の立地を促進し、まちなかで必要な機能がそれぞれつながる便利でコンパクトな「まちなか」を形成し、新たな投資を呼び込む好循環を生み出します。
② 来街者のニーズを取り込み効果的な情報発信を行うことで、「まちなか」の魅力を向上させます。
③ 住む人はもちろんのこと、誰にとっても居心地のよい、訪れたくなる空間を創出します。
④ こどもの頃から誇りと愛着を持ち、さまざまな世代の誰もが安心して暮らし続けることができる「まちなか」を創出します。

関連する主な個別計画
中心市街地活性化基本計画、街なか再生計画、中央大通り再生計画

05　農林水産

こどもたちが農林水産業をしごとに選ぶまち

新しい技術の開発や導入、活用などによって、農林水産業の在り方は大きく変わっていきます。私たちが目指すのは「こどもたちが憧れ、将来の職業として農林水産業をしごとに選ぶ」まちです。佐賀が持つ豊かな農林水産の資源が次世代に引き継がれていくように、「スマートに稼げる農林水産業」というイメージの定着を図ります。

2040 年に目指す市民等の姿

1　市民は、農業に魅力を感じ、豊かな農産物を誇りに思って暮らしている。

主なポイント

生産の担い手となる農家を育てること	農地の集約・集積によって、効率的な農業経営を進めること	新しく農業を始める人をサポートすること

2　市民は、森林資源を循環利用することで、豊かな森の恵みを感じながら暮らしている。

主なポイント

集約化による低コストで効率的な森林整備を行うこと	森林・林業を支える意識をみんなが持つこと	森林の循環を高めること

3　市民は、有明海を守り、豊かな海の恵みを感じながら暮らしている。

主なポイント

佐賀が誇る海苔の生産が安定すること	働きやすく、働き手が適正に確保された労働環境であること	漁業環境が適切に整備されていること

1 感動を与え、稼ぐ農業の実現

① 担い手の育成と農業・農村を支える多様な人材の育成を図り、労働力の確保に力を入れます。
② 先端技術や機器の導入によるスマート農業を推進し、作業の効率化・省力化や農作物の高品質化を図ります。
③ 担い手への農地の集積・集約化や農地の高度利用に対応したほ場や農道の大規模化など基盤整備を推進し、生産性の向上を図ります。
④ 消費者や実需者のニーズに応じた生産体系の構築により、地場産品のブランド化に磨きをかけ、販路拡大を行っていきます。
⑤ 小さい頃から農業に触れる機会を提供し、農業の魅力を活用した“農”のあるまちづくりを推進します。

関連する主な個別計画
農業振興基本計画、農村振興基本計画

2 森林を守り、育て、使う林業の発展

① 森林所有者に適切な管理を促すとともに、森林経営管理制度に基づき、手入れが十分でない私有林の整備を市が行います。
② 守るべき森林、使うべき森林を区分し、効率的な整備につなげます。
③ スマート林業導入による業務の省力化、労働条件の改善等の支援とともに、担い手の育成を行います。
④ 市民団体との協働でSDGsと関連付けた森林環境教育を行い、また、森林と親しむ体験の創出を図ります。
⑤ 関係団体と連携しながら、より一層の木材利用、地域産材の活用を進めます。

関連する主な個別計画
森林整備計画、森林・林業再生計画

3 活力ある水産業と豊かな海・有明海の共生

① 担い手の育成と労働時間縮減のための施設の整備を支援します。
② 漁場環境を改善し、漁場機能の回復を図り、魚貝類の漁獲量の確保と海苔の安定生産を目指します。
③ 佐賀海苔の美味しさを伝え、消費等の拡大を図ります。
④ 漁港の健全な機能の維持と長寿命化対策を計画的に推進します。

06　生活・環境

豊かな自然に包まれ、人々が心地よく暮らすまち

佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直し、脱炭素化の推進、自然との共生など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。

2040年に目指す市民等の姿

1　市民は、主体的に徒歩や自転車、公共交通機関で移動し、市民生活や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われている。

主なポイント

- 市民一人ひとりが脱炭素に向けた行動をとっていること
- 産学官連携のもと、事業者が脱炭素経営を行っていること
- 再生可能エネルギーの導入と自家消費促進・蓄電池が普及していること

2　市民や事業者は、3Rの大切さを理解し、自ら進んで取り組んでいる。

主なポイント

- 市民一人ひとりが3Rに取り組むことができる環境があること
- プラスチックの資源循環をはじめとして持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること
- ごみ発電など地域の再生可能エネルギーが地域内で利用されること

3　市民は、豊かな自然や身近な生活環境を守るため、自らできることに取り組み、自然や生物と共存するまちで快適に暮らしている。

主なポイント

- 佐賀市の多様な自然や生態系について関心を持ち、自然環境の保全や再生に取り組んでいること
- 市民と協働して良好な生活環境の維持に取り組むこと
- 継続的に公害を防止すること

1 脱炭素が当たり前の社会の実現

① 市民一人ひとりが取るべき環境配慮行動を伝え、実践するための意識啓発を図ります。
② 事業者に対し、自社を取り巻く脱炭素に向けた潮流を踏まえ、自分事として取り組んでもらえるよう啓発を進めます。
③ カーボンクレジットを活用した資金循環やオフセット等により、事業者のGXに向けた行動変容を促します。
④ 太陽光、水力、地中熱などの再生可能エネルギー導入と自家消費の促進、蓄電池の普及を図ります。
⑤ 産学官が連携し、次世代エネルギーの供給・需要の拠点形成に向けた研究を行い、その普及と活用に向けて取り組みます。

関連する主な個別計画
環境基本計画、地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)

2 「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」への転換

① 環境行動にインセンティブを与えるような動機付けの施策を展開します。
② 民間リユースなど、「捨てる」以外の選択肢を提供し、もったいない意識の高揚を図ります。
③ 分別できる拠点場所を設け、資源循環の輪を広げます。
④ 3Rを推進し、新たに再生資源化できるものを増やします。
⑤ 廃棄物の適正処理の継続、特に災害時においては、さまざまな災害を想定した災害廃棄物処理体制を確立します。
⑥ ごみ処理施設等から生じるエネルギー(電気・熱)や資源(二酸化炭素、焼却灰等)の有効活用を推進します。

関連する主な個別計画
環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画

3 豊かな自然と心地よい暮らしの調和

① 環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、佐賀市が誇る自然環境の保全や再生を行います。
② 有明海の希少な生物や産物等の恵みを生活や産業活動に持続的に活用し、「ひがさす」を拠点として交流・学習の機会を創出します。
③ 市民と協働して、外来生物、カラス等への対応を強化します。
④ ペットの適正飼育の啓発、安心してペットを飼うことができる環境づくり(高齢化・災害時)に努めます。
⑤ 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等の公害防止のための継続的規制を行います。
⑥ 不法投棄の監視体制を強化するなど、ごみを捨てにくい環境をつくります。
⑦ し尿などの適切な処理を継続的に行います。

関連する主な個別計画
環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画、東よか干潟環境保全及びワイズユース計画

※GX…グリーントランスフォーメーションの略。化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。

07 コミュニティ

ひと×ひとで多様に彩るまち

佐賀市には、暮らす人々がふれあい、つながり合う、あたたかい地域性があります。
この佐賀らしさをもっと磨き上げ、みんなが自分らしく輝き、彩りあふれるまちにしていく。
そのために、みんなの個性や生まれ持つ権利、多様性を尊重し、市民が互いに支え合いながら、一緒に豊かなコミュニティをつくることを目指します。
私たちは、まちづくりに関わる活動に、誰もが気軽に楽しみながら参加できるよう、また、心地よい暮らしを実現するための仕掛けづくりに積極的に取り組んでいきます。

2040年に目指す市民等の姿

1 幅広い世代、地域、企業などのさまざまな主体は、積極的に参加と協働のまちづくりに取り組んでいる。

主なポイント

- 市民等が主体となってまちづくりに参加していること
- 地域の特徴に合わせて、地縁型組織によるまちづくりが行われていること
- 地域・企業・学生等との協働によるまちづくりが行われていること

2 市民は、一人ひとりの個性や価値観を生かし、自分らしく幸せに暮らしている。

主なポイント

- 個性や生き方等の違いを認め合い、自分を大切にすると同時に互いを思い合っていること
- 個人の尊厳を互いに尊重し合い、誰からも差別や偏見を受けず、安心して暮らせていること
- 誰もが理想とする生き方、働き方を実現していること

3 市民は、国籍に関わらず言語や文化、生活習慣などの違いを認め合い、地域社会の一員として活躍している。

主なポイント

- 外国人材や留学生の家族滞在の増加に伴い、幅広い年齢層に対して支援がされていること
- 地域コミュニティに外国人を受け入れる機運が醸成されていること
- 生活に必要な情報が迅速かつ正確に伝わるために多言語化されていること

1 みんなが主役のまちづくり

① まちづくりに関する情報について、幅広い世代に伝わるよう多様な媒体を活用した広報啓発を実施します。
② 地域活動を支援するため、公民館の利活用の幅を広げることで、地域に関わる人を増やし、コミュニティにおける拠点性を高めます。
③ デジタルツール等を活用したスマートな情報伝達体制の検討を行うなど、現役世代や若者の積極的な参加を促します。
④ まちづくり協議会の情報共有や、市民活動団体、企業、学生等との協働により新たな人材発掘、認知度向上を図るとともに、多様な主体間の情報共有やマッチングの促進を図ります。
⑤ 地域実情に応じた自主財源確保を目指すなど、市民活動団体の資金獲得や情報発信等に関する支援を強化し、団体の活動の活性化を図ります。
⑥ 集落生活圏を維持するため、地域課題の解決を目的として地域住民が行う「小さな拠点づくり」を推進します。

関連する主な個別計画
参加と協働をすすめる指針

2 自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現

① 全ての人々がお互いの人権や尊厳を大切にし、いきいきとした人生を送ることのできる「共生社会」の実現を目指します。
② 家庭、しごと、地域で誰もが参画できるジェンダー平等社会を形成します。
③ 誰もが自らが理想とする、安心で自立した生活ができるよう支援体制の確保に努めます。
④ 人権教育・啓発を推進し、部落問題等のさまざまな人権問題の解決に向けた取組を行います。

関連する主な個別計画
人権教育・啓発基本方針
男女共同参画計画
配偶者等からの暴力(DV)の防止及び被害者の支援に関する基本計画
女性の活躍に関する推進計画

3 多文化共生による暮らしやすさの推進

① 外国人が安心して生活できるよう、妊娠期から高齢期までのライフステージに応じた支援を行います。
② 日常生活に必要な言語を習得するため、日本語教育の環境整備を図ります。
③ 国籍や文化の違いを認め、お互いを理解し合う機会や姉妹都市交流などの場を提供します。
④ 生活に必要な情報について、「やさしい日本語」を含む多言語での発信を推奨します。
⑤ 外国人材の長期定住化を図るため、企業等と連携しながら支援を行います。

08 防災・安全

安全な暮らしが日々の備えで支えられているまち

台風や地震等の自然災害、低平地という佐賀市の特性から悩まされる水害、そして、多様化・複雑化する犯罪や交通事故。このような脅威から私たちの暮らしを守るには、日々の備えが重要です。そのことが、非常時の安全確保につながります。
安全な暮らしを実現するため、ハード・ソフトの両面から備えを充実させたまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿

1 市民は、防災・危機管理体制の充実を実感し、安心して暮らしている。

主なポイント

- 防災組織の組織力や防災力を高めること
- 消防・救急活動が持続可能であること
- 被災者一人ひとりに寄り添った支援ができること

2 市民は、水害への安心感が増した暮らしを実感している。

主なポイント

- 流域治水により、平野部で安心して暮らせること
- がけ崩れ等のリスクを軽減し、山間部で安心して暮らせること
- みんなの活動できれいな河川が守られていること

3 市民は、交通事故や犯罪に巻き込まれることなく、安心して穏やかな日々を送っている。

主なポイント

- 道路交通環境の変化に対応した交通安全対策が進んでいること
- 人口が減る中でも、地域の安全が守られていること
- 複雑化・多様化する犯罪や消費者トラブルに巻き込まれないようにすること

1 総合的な防災・危機管理対策の充実

① 自主防災組織の活動の充実を図るため、リーダーの支援や育成により、組織率の向上を図るとともに、最新技術も取り入れ、地域防災力の向上を図ります。
② 消防団と佐賀広域消防局の資源（要員、資機材、施設等）の再配置と最新技術の導入を促すとともに、大規模災害時の広域連携の強化を図ります。
③ 自然災害や武力攻撃等に備え、地域防災組織、最新技術等、あらゆる手段を駆使し、迅速に、かつ、正確な情報伝達を行い、市民の生命・身体を守る取組を強化します。
④ 避難体制の確立や被災者に必要な支援体制の整備など、関係者が連携して、被災者に対するきめ細かな支援を継続的に実施できる取組の整備等を推進します。

関連する主な個別計画
地域防災計画、国民保護計画

2 激甚化・頻発化する水害に備えたまちづくり

① 平野部における河川改修や内水排除対策など、あらゆる関係者による流域全体での治水対策を計画的に推進します。
② 山間部の土砂災害防止対策など災害を未然に防ぐ基盤整備の推進を図ります。
③ 流域治水を支える市民主体の河川清掃活動を推進し、持続可能なまちづくりを図ります。

関連する主な個別計画
排水対策基本計画

3 地域ぐるみによる生活者の安全確保

① 交通ルールの遵守や交通マナーの向上に向けた交通安全教育の推進や啓発、関連するハード整備など交通安全対策の充実を図ります。
② 高齢者や外国人を対象とした交通安全に関する啓発の取組を推進します。
③ 地域の防犯活動を支援するとともに、犯罪が起こりにくい地域づくりを推進します。
④ 警察等関係機関と連携し、詐欺被害を未然に防ぐ取組の強化を図ります。
⑤ 多様な消費者問題に対応できる相談体制を構築するとともに、自ら問題解決できる消費者の育成を図ります。
⑥ 高齢者に対する消費者トラブルの情報発信や講座の充実を図るとともに、地域や関係機関等と連携し、高齢者の見守りを推進します。

関連する主な個別計画
交通安全計画

09　都市・交通

人中心に暮らしやすさが整ったまち

これからの地域社会においては、こどもから高齢者までさまざまな世代が安心して暮らせる人中心のまちづくりが必要です。
快適な居住環境、公園、道路、上下水道などの都市基盤、各拠点をつなぐ公共交通の整備においても、市民それぞれの生活に合わせたまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿

1　市民は、自分たちのライフスタイルに合わせて、安心して心地よく住んでいる。

主なポイント

暮らしやすい地域への居住が進んでいること	空家の除却と利活用が進んでいること	地震に強い建物を増やすなど安心して暮らしやすい環境があること

2　市民は、まちのみどりを楽しみながら、心地よく暮らしている。

主なポイント

まちのみどりを維持し、緑化活動を楽しんでいること	利用者目線で整備された公園で居心地よく過ごせること	魅力的な景観に愛着や誇りを持っていること

3　市民や来訪者は、さまざまな交通手段を自由に選んで、スムーズに移動している。

主なポイント

地域の特性に合った交通ネットワークを再構築すること	新しい技術を生かした交通を推進すること	多様な交通モードの充実とシームレスな移動を実現すること

4　市民は、地域を結ぶ道路や生活道路を快適に安全に通行している。

主なポイント

快適で安全に通行できる交通環境を整備すること	市内の拠点間をつなぐ幹線道路ネットワークを充実すること	道路インフラの長寿命化や維持・管理の高度化・効率化を実現すること

5　市民は、いつでも蛇口から美味しい水を飲み、トイレを快適に使用できる。

主なポイント

浄水場や下水道の処理場、管路などが適正に更新されていること	地震や風水害に強い上下水道であること	人口減少に伴う収入減に対応し経営が安定していること

1 魅力ある居住環境の創出

① 生活利便性の高い地域への居住誘導と既存集落を維持する開発許可制度の適切な運用を図ります。
② 危険な空家の除却とともに、リフォームなどの利活用策により空家市場の流通促進を図ります。
③ 建築物の耐震化を促進する取組や市営住宅の適正管理、管理不全マンションへの取組を図ります。

関連する主な個別計画

都市計画マスタープラン、立地適正化計画、空家等対策計画
地籍調査基本計画、建築物耐震改修促進計画、住宅マスタープラン

2 市民と織りなす都市のみどりと美しい景観

① 今あるみどりを育て（育樹）、活かす（活樹）とともに、市民の意識向上と都市緑化を進めます。
② 公園を適切に維持管理し、地域や民間の活力を得ながら、健康増進や交流の拠点として活用していきます。
③ 特色ある景観資源の適切な保全と創出を図るとともに、景観計画に基づく啓発を推し進め、景観意識の醸成を図ります。

関連する主な個別計画

みどりの基本計画、景観計画・歴史的風致維持向上計画

3 多様な移動ニーズに応える地域公共交通の実現

① コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進し、中心部と郊外部が容易にアクセスできる持続可能な公共交通網を構築します。
② 自動運転等の交通DXを推進し、利用者利便と事業者の生産性や事業継続性の向上につなげます。
③ 公共交通機関とシェアリングモビリティの連携など、利用者のニーズに応じた移動を実現し、都市の価値や魅力を高めます。

関連する主な個別計画

地域公共交通計画

4 人と環境に配慮した道路ネットワーク整備

① 安全で快適な歩行空間や自転車走行空間の整備を図ります。
② 移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO_2排出量の削減に寄与する道路ネットワークを充実させます。
③ 最新技術やデジタル技術を活用し、道路インフラの長寿命化や維持管理の高度化・効率化を図ります。

関連する主な個別計画

自転車利用環境整備計画、橋りょう長寿命化修繕計画、都市計画道路整備プログラム、舗装個別施設計画

5 暮らしを支える安全安心な上下水道の整備

① 老朽化する施設・管路の点検や更新規模の検討を行いながら、適正な更新や修繕を進めていきます。
② 優先順位に配慮した計画的な施設整備で、災害時にも継続的に上下水道サービスを提供できる施設を構築します。
③ 経営環境の変化に対応した効率的な事業運営と適正な料金設定などの経営基盤の強化を図ります。

関連する主な個別計画

上下水道ビジョン、上下水道局経営戦略

10 行政経営

OPENなしせい（市政・姿勢）で挑むまち

少子・高齢化、人口減少が進行する中、限られた職員数で多様化し続ける市民ニーズにスピード感をもって対応する必要があります。そのためには、「市政」を見える化し、垣根なく、さまざまな声を大切にし、市民とともに、変化に挑み続ける姿勢が重要です。
佐賀市の行政運営に対する関心と信頼に応え続けていくために、常に改革・改善に取り組みながら質の高い行政サービスを提供していきます。

2040年に目指す市民等の姿

1 **市民は、誰でも、いつでも、どこでも、必要な情報を手に入れることができ、多くの人が佐賀市に関わりたいと思っている。**

主なポイント

- 最新技術を活用した、個人のニーズに応じた情報提供を実施すること
- 市民からの幅広い意見の把握と政策等への活用を推進すること
- 佐賀市に対する前向きな評価の獲得と認知度を向上させること

2 **市民は、選択と集中による質の高い行政サービスに満足し、行政運営を信頼している。**

主なポイント

- 事務事業の見直しにより財源を確保し、未来への投資を推進すること
- 市民に寄り添い、心の通ったあたたかみのあるしごとにシフトすること
- 公共施設を計画的に管理し、資産を有効活用すること

1 双方向のコミュニケーションによるファンづくり

① 「自分事」として関心を持ってもらえる情報の見せ方、届け方をします。
② 最新技術を活用し、対象者の絞り込みと発信ツールの最適化を行うとともに、市民・職員の双方において手続の簡素化、利便性の向上を図ります。
③ 市民の意見を分析し、市民ニーズを政策等に生かす取組を行います。
④ 佐賀市のよいところをさまざまな視点で伝え、市民からも、外部からも魅力を感じてもらう取組を行います。

2 信頼される持続可能な行政運営

① 限られた財源を有効に活用するため、常に事業成果を確認しながら、未来への投資を推進していきます。
② 効率的で効果的なしごとのやり方を追求し、全ての職員が主体性を持って活躍することで、限られた職員数でも、多様化する市民ニーズに的確に応えられる体制を強化します。
③ 市民のライフスタイルやニーズに応じた窓口等の行政サービスを構築するため、技術の進化に対応した変革を続けていきます。
④ 最新技術やデータをフル活用し、市民との接点をより大切にすることで、市役所で働くやりがいや魅力度を向上させます。
⑤ 公共施設の総量の適正化を進めるとともに、施設の長寿命化、遊休施設の売却・貸付など資産の有効活用を図ります。
⑥ 議会が、適正に、かつ効率的にその機能を十分に発揮できるよう必要な環境を整えます。

関連する主な個別計画
行政経営推進プラン
公共施設等総合管理計画

● 分野別の目指す姿（SDGs と政策の対応）

持続可能なまちづくりを進めるためには、地域の内外に関わらず、地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画し、地域資源を活用しながら、地域の実情に応じた発展を実現していく必要があります。そのためには、若者、高齢者、女性、障がい者、外国人など、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現することが重要です。

国連では、2015 年 9 月に 2030 年までの目標として、17 の貧困や飢餓の根絶・福祉の推進等の開発目標として―「SDGs」（Sustainable Development Goals）を掲げ、国際社会全体の課題として取り組んでいます。

市においても、「誰一人取り残さない」社会の実現というSDGsの理念を踏まえ、SDGsを原動力として、まちづくりを進めることが求められています。

出所：国際連合広報センター

政策とSDGs関連一覧表

基本政策 ＼ 対応するSDGs		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
01	子育て・教育	○	○	○	○	○					○	○					○	○
02	健康・福祉	○	○	○		○					○	○					○	○
03	文化・スポーツ			○	○	○			○	○		○						○
04	経済・観光					○			○	○		○	○					○
05	農林水産		○			○				○		○	○	○	○	○		○
06	生活・環境			○		○	○	○				○	○	○	○	○		○
07	コミュニティ	○		○		○				○	○	○					○	○
08	防災・安全					○			○	○	○	○		○		○	○	○
09	都市・交通					○	○	○		○	○	○		○		○		○
10	行政経営					○					○	○					○	○